

実務経験のある教員等による授業科目一覧【作業療法学科】

授業科目	単位数	実務経験のある科目担当教員の氏名		
リハビリテーション心理学	2	笠木 理江		
情報処理演習	2	杉本 亙		
保健体育理論Ⅰ	2	檀 拓真		
保健体育理論Ⅱ	2	檀 拓真		
リハビリテーション英語	2	出水 一美		
医療コミュニケーション学	2	矢ヶ部 華世子		
解剖学Ⅰ(筋・骨格系)	1	秋永 洋平		
解剖学Ⅱ(脳・神経系)	1	杉本 亙		
体表解剖学Ⅰ(触察:上肢・体幹)	1	檀 拓真		
体表解剖学Ⅱ(触察:下肢、他)	1	檀 拓真		
生理学Ⅰ(総論)	1	出水 一美		
生理学Ⅱ(植物系)	1	杉本 亙		
生理学Ⅲ(動物系)	1	南里 英幸		
運動学Ⅰ	2	中島 喜代彦		
運動学Ⅱ	2	中島 喜代彦		
人間発達学	2	出水 一美		
臨床心理学	2	矢ヶ部 華世子		
病理学概論	1	杉本 亙		
小児科学	1	檀 拓真		
内科学	2	村谷 美里		
栄養学	1	笠木 理江		
薬理学	1	笠木 理江		
老年医学	1	村谷 美里		
整形外科	2	檀 拓真		
神経内科学	2	秋永 洋平		
精神医学	2	矢ヶ部 華世子		
リハビリテーション医学	2	村谷 美里		
リハビリテーション概論	2	笠木 理江		
医療保健福祉制度論	2	杉本 亙		
作業療法学概論	1	村谷 美里		
基礎作業学Ⅰ	1	矢ヶ部 華世子		
基礎作業学Ⅱ	1	矢ヶ部 華世子		
作業学実習	1	笠木 理江		
作業療法理論	2	矢ヶ部 華世子		
作業療法研究法	1	檀 拓真		
作業療法管理学	2	笠木 理江		
作業療法評価学概論	1	村谷 美里		
身体機能評価学演習Ⅰ	1	秋永 洋平		
身体機能評価学演習Ⅱ	1	秋永 洋平		
精神・認知機能評価学演習	1	矢ヶ部 華世子		
作業分析学演習	1	矢ヶ部 華世子		
日常生活活動学	2	村谷 美里		
義肢装具学	2	檀 拓真		
身体障害作業治療学Ⅰ(整形)	2	檀 拓真		
身体障害作業治療学Ⅱ(中枢)	2	杉本 亙		
身体障害作業治療学演習	1	秋永 洋平		
高次脳機能障害作業治療学	2	笠木 理江		
高次脳機能障害作業治療学演習	1	笠木 理江		
精神障害作業治療学	2	矢ヶ部 華世子		
精神障害作業治療学演習	1	矢ヶ部 華世子		
発達障害作業治療学	2	秋永 洋平	杉本 亙	村谷 美里
発達障害作業治療学演習	1	曾根川 達司		
老年期作業治療学	2	村谷 美里		
作業療法セミナーⅠ	1	村谷 美里		
作業療法セミナーⅡ	1	杉本 亙		
基礎医学演習	2	笠木 理江	秋永 洋平	
臨床医学演習	2	笠木 理江	秋永 洋平	
基礎作業療法学演習	2	笠木 理江	秋永 洋平	
臨床作業療法学演習	2	笠木 理江	秋永 洋平	
地域作業療法学Ⅰ	2	杉本 亙		

地域作業療法学Ⅱ(福祉用具学を含む)	2	杉本 亙		
OSCE	2	秋永 洋平	檀 拓真	
臨床課題演習Ⅰ	4	笠木 理江	秋永 洋平	矢ヶ部 華世子
臨床課題演習Ⅱ	2	笠木 理江	秋永 洋平	
見学臨床実習	3	村谷 美里		
基礎臨床実習	3	杉本 亙		
総合臨床実習	16	秋永 洋平		
合 計	124			

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
	○			令和 2年度 OT学科					
授業科目名	リハビリテーション心理学			担当者名		笠木 理江			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期
							30		
授業概要	対象者やご家族を理解する上で必要となる心の働きや発達について理解することを目的とします。また、心理学校検査について学びます。								
成績評価	期末試験にて評価する								
その他	実務経験（有 学校勤務、病院勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	よくわかる臨床心理学	山口 創	川島書店
参考図書	医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー	山田 富美雄	北大路書店

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション 心理学とは 医療と心理学の関係
2	性格の構造（フロイトの理論、ユングの理論）
3	性格の構造（自己認知と他者認知）
4	心の発達（フロイトのリビドー説、ピアジェの発達段階）
5	心の発達（エリクソンのライフサイクル論）
6	発達段階における心理的問題
7	ストレスと心の健康（ストレスとは。ストレスの種類と症状）
8	ストレスと心の健康（ストレスコーピング）
9	心の働き（知覚について）
10	心の働き（記憶について）
11	心の働き（学習について）
12	知能（知能とは）
13	知能（知能検査法）
14	心理検査法について
15	まとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和 2年度 OT学科					
	○								
授業科目名	情報処理演習				担当者名		杉本 亙		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数		2			授業時間数	前期 30	後期	前期	後期
授業概要	基礎的な文章作成や表計算、プレゼンテーションで求められるパーソナルコンピュータの知識及び技術の獲得を目的とする。								
成績評価	課題の作成過程も含めた評価（提出期限、提出内容など）が100%。								
その他	実務経験（有 病院勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	適宜プリント配布。		
参考図書	適宜プリント配布。		

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション、概論：情報リテラシー、セキュリティ、モラルについて理解し、コンピュータやソフトウェアの種類を知ることができる。
2	Word：入力と設定 ページ設定や文章入力を行い、「自己紹介」課題を作成することができる。
3	Word：文章作成 文章設定の変更や表作成を行い、「レポート表紙」「ビジネス文章」課題を作成することができる。
4	Word：図形とイラストの挿入 図形やイラスト、ワードアートを活用し、「家系図」「人間」課題を作成することができる。
5	Word：応用 今まで学習してきたことを活用し、レポートの作成することができる。
6	Excel：基本的な使用方法、数式・関数を使った表作成① 基本的な使用方法を理解、数式を使用し「要介護者認定」「バイタルチェック表」課題を作成することができる。
7	Excel：数式・関数を使った表作成② 様々な数式、関数を使用し「年齢階級別人数」「診察日数」課題を作成することができる。
8	Excel：統計処理 統計処理について理解し、代表値を算出することができる。
9	Excel：グラフ作成とデータの活用 グラフの作成することができ、学んできた知識を利用しデータを活用することができる。
10	Powerpoint：プレゼンテーションの作成 Powerpointの基本操作を学び、スライド資料を作成することができる。
11	Powerpoint：プレゼンテーションの作成 Powerpointの基本操作を学び、スライド資料を作成することができる。
12	Powerpoint：プレゼンテーションのデザインと視覚効果 スライド資料のデザインと視覚効果を利用し、編集・構成することができる。
13	Powerpoint：プレゼンテーションのデザインと視覚効果 スライド資料のデザインと視覚効果を利用し、編集・構成することができる。
14	スライド発表：プレゼンテーションの実行 Powerpointを使用し、プレゼンテーションを実施、また質疑応答を行うことができる。
15	スライド発表：プレゼンテーションの実行 Powerpointを使用し、プレゼンテーションを実施、また質疑応答を行うことができる。

科目区分	基礎分野	専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
	○				令和 2年度		OT学科			
授業科目名	保健体育理論 I				担当者名		檀 拓真			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次		
単位数	2				授業時間数	前期 30	後期	前期	後期	前期 後期
授業概要	健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的とする。 適切な指導を行えることが、今後の健康の維持増進に必要不可欠であるため、子どもから高齢者の特徴について学んでいく。									
成績評価	課題提出をもって評価する									
その他	実務経験（有 病院勤務）									

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	生涯スポーツトレーナー教本	水嶋昭彦、中尾繁樹、油谷信隆 監修	学校法人 国際 学園 2015
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	合同授業（生涯スポーツトレーナーとは） 【水嶋理事長】
2	合同授業 1) ガイダンス 2) 生涯スポーツトレーナーについて 3) 0-100プロジェクトについて
3	e-learning「スポーツ」「運動」の必要性（7分） ファンクショナルトレーニングとは（14分） 正しい姿勢とプランク（24分）
4	e-learning基礎動作の重要性（11分） 上肢の動きについて（13分） 下肢の動きについて（15分）
5	e-learning全身を連動させた回旋運動について（16分） プログラミングの重要性について（12分）
6	e-learning運動指導におけるコーチングについて（31分） 2) スポーツコーチングについて
7	e-learning骨の役割（4分） 骨の構造（9分） 筋の分類（3分） 骨格筋について（6分） 筋収縮のメカニズム①②（8分）（6分）
8	e-learning 人体の区分と名称（6分） 身体の方角をあらわす用語（16分） 代表的な関節運動（15分） 脊柱（14分）
9	e-learning子ども 高齢者運動指導の基礎知識（22分） 高齢者の運動指導（23分） 児童期の運動指導（17分）
10	e-learning医療行為と医療類似行為（11分） 禁止事項（11分）
11	合同授業（Tボール）①
12	合同授業（Tボール）②
13	合同授業（Tボール）③
14	合同授業（Tボール）④
15	生涯スポーツトレーナーベーシック試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
	○			令和 2年度 OT学科					
授業科目名	保健体育理論Ⅱ			担当者名		檀 拓真			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期
							30		
授業概要	健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的とする。適切な指導を行えることが、これからの健康の維持増進に必要不可欠であるため、子どもから高齢者の特徴について学んでいく。本授業は主に実技指導を中心に行う。								
成績評価	課題提出をもって評価する								
その他	実務経験（有 病院勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	生涯スポーツトレーナー教本	水嶋昭彦、中尾繁樹、油谷信隆	学校法人 国際学園
参考図書	世界一わかりやすいパーソナルストレッチ、背骨コンディショニングパーソナルトレーナー教本	日野秀彦、牧谷祐志	株式会社 星雲社

回数	授 業 計 画
1	ガイダンス（受講上の注意等）、生涯スポーツトレーナーアドバンスについて
2	合同授業 ファンクショナルトレーニング①
3	合同授業 ファンクショナルトレーニング②
4	合同授業 パーソナルストレッチ①
5	合同授業 パーソナルストレッチ②
6	合同授業 背骨コンディショニング①
7	合同授業 背骨コンディショニング②
8	合同授業 高齢者と子どもの運動指導について学ぶ
9	e-learningにて行う（骨の役割、骨の構造、筋の分類、骨格筋、筋収縮のメカニズム）
10	合同授業①（Tボール）
11	合同授業②（Tボール）
12	合同授業③（Tボール）
13	合同授業④（Tボール）
14	課題作成とまとめ
15	課題作成とまとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
	○			令和 2年度 OT学科					
授業科目名	ボディケア理論			担当者名		蓼田 のり子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期 30	後期	前期	後期
授業概要	授業では実技が中心となり、靴の変形・足の皮膚・爪のトラブル・身体全体のバランスの歪みをチェックする。その後、足の「反射ゾーン」へ指で刺激することで、身体の各部へ反射投影させ心身のバランスを整え、人間本来が持つ「自然治癒力」を引き出し高める技術と知識を習得する。								
成績評価	出席状況・講義への参加意欲・期末試験を総合的に判断する。								
その他	当学校、整体セラピスト学科 学科長								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	リフレクソロジー 理論編 リフレクソロジー 実技編		
参考図書	適宜、資料は配布する。		

回数	授 業 計 画
1	実技に入る事前の基礎知識として、歴史、期待できる効果・目的、資格、関係法規を学ぶことにより、興味を持ちより効果を体感できるものとなることを目的とする。
2	事前準備として、施術者の心構え、お客様への配慮、実践してはいけない場合等の注意事項、施術中にみられるお客様の反応を学び、安心して実習に取り組めるようにする。
3	足のアーチ構造・反射区、足のトラブルとそれが原因でおこる他のトラブル、皮膚の基礎知識を学ぶ。足の観察をし記録することで、個人差や左右差があることを学ぶ。
4	足の反射区と身体の関係について学ぶ。＜実技＞事前準備(足の洗浄・タオルワーク・ホットタオルによる拭き取り)、マッサージオイルを用いて基本手技を学び施術。
5	＜実技＞足裏のツボ(湧泉・足心・失眠)の位置を学ぶ。左足のみ施術。マッサージオイルの塗布、四大軽擦、足裏のツボ、足関節の施術、足趾の施術Ⅰ～Ⅲを学び施術。
6	＜実技＞右足のみ施術。マッサージオイルの塗布、四大軽擦～足関節の施術、足趾の施術Ⅰ～Ⅲを学び施術。内方手・外方手が左足とは逆になることを理解し施術。
7	＜実技＞左足にマッサージオイルの塗布後、足裏の施術Ⅰ～Ⅲ、足の甲、足部(内側・外側)を学び施術。施術をしていない右足との比較をする。
8	＜実技＞右足にマッサージオイルの塗布後、足裏の施術Ⅰ～Ⅲ、足の甲、足部(内側・外側)を施術。交替し、お互い施術する。また、教室内を歩行した感想をシェアする。
9	カウンセリングシートを用いて、視て・触れて・記録。また、施術者の身だしなみ、声掛け、立ち位置、足の触れ方などについても学び実践しお互いフィードバックする。
10	＜実技＞カウンセリング・事前準備・両足の施術をする。施術後、巻末の「施術の記録」への記載を行いフィードバックする。
11	＜実技＞カウンセリング・事前準備・両足の施術を時間計測する。(制限時間35分) お互い施術後、巻末の「施術の記録」への記載を行いフィードバックする。
12	＜実技＞カウンセリング・事前準備・両足の施術を時間計測する。(制限時間30分) お互い施術後、巻末の「施術の記録」への記載を行いフィードバックする。
13	＜実技＞サロンシュミレーション：お客様対応、待ち時間も含め時間を意識した施術を行う。また、アンケートによりフィードバックされた改善点を把握し、改善する。
14	＜実技＞カウンセリング・事前準備・両足の施術を時間計測する。(制限時間25分) お互い施術後、巻末の「施術の記録」への記載を行いフィードバックする。
15	期末(筆記)試験の説明と対策を、配布プリントを用いて行う。期末(実技)試験について「実技評価表」を用いて説明する。

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和 2年度 OT学科					
	○								
授業科目名	リハビリテーション英語			担当者名		出水 一美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期 30	後期	前期	後期
授業概要	リハビリテーションの現場で使われる専門用語や骨や筋の英語を理解し覚えることを目的とする。医療現場で利用できる英会話の学習を目的とする。								
成績評価	期末試験、小テストを総合的に評価する								
その他	実務経験（有 病院勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	なし		
参考図書	「骨単」「肉単」「キュアとホスピタリティの英語Ⅰ」	原島広至 著, 古閑博美・野口陽子 著	エヌ・ティー・エス, 弓プレス

回数	授 業 計 画
1	リハビリテーション英語概要、人体（前面）の英単語、英会話リスニング①
2	人体（後面）の英単語、症状別単語の学習、英会話リスニング②
3	運動方向の学習、医療従事者の英単語
4	英会話リスニング③、④
5	上肢（頭部、肩甲骨、肩、肘、前腕、手部、手指）の骨
6	頸部、体幹、骨盤の骨、英会話リスニング⑤
7	下肢（大腿、膝、下腿、足部、足趾）の骨、英会話リスニング⑥
8	英会話まとめ
9	頸部、肩甲骨、肩に付着する筋肉
10	肩、肘、手指に付着する筋肉
11	臀部、大腿部に付着する筋肉
12	膝、足部、足趾に付着する筋肉
13	体幹に付着する筋肉
14	英会話実演習
15	まとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
	○					令和 2年度		OT学科			
授業科目名	医療コミュニケーション学					担当者名		矢ヶ部 華世子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					
授業概要	医療職種として、対象者及びご家族への対応は適切なものを身につけておく必要があります。また、医療機関等にて働くスタッフのコミュニケーション技術の向上が、そのまま医療・福祉における質の向上に結びつきます。そのために医療職種としての基本的な接遇とコミュニケーションスキルを理解するものです。										
成績評価	・ 期末試験 50%前後 ・ レポート課題 50%前後 にて評価する										
その他	実務経験（有 病院勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	新版 医療の接遇 基本マニュアル&演習	医療タイムス社教育研修事業部	医療タイムス社
参考図書	接遇マニュアル	(社)福岡県作業療法協会	(社)福岡県作業療法協会

回数	授 業 計 画
1	医療コミュニケーション学を学ぶにあたり、医療における接遇の必要性や、医療機関の規模や役割、医療制度など基本的な知識を理解する。
2	接遇の基本となる第一印象の重要性を知り、適切な身だしなみや表情などを理解する。
3	接遇の基本となる適切な挨拶や態度・動作、適切な言葉遣いを理解する。
4	接遇の基本となる適切な電話対応、カウンセリングマインド、社会人としての心がまえなどを理解する。
5	SSTの技法を用いて、修得した電話対応を実践することで、お互いにフィードバックする。
6	社会人として求められること、基本的なマナーなど社会人としての常識を身につける。
7	遅刻・早退・欠勤をしたときの対処法、報告・連絡・相談の必要性や方法など社会人としての常識を身につける。
8	見学実習後のお礼状作成など、社会人として必要な文書マナーを身につける。
9	オリエンテーション（高齢者施設見学の概要、実習の流れ、課題レポートについて理解する）
10	高齢者施設での見学実習の中で、医療コミュニケーションで学んだ接遇を活かし実践する。
11	高齢者施設での見学実習の中で、医療コミュニケーションで学んだ接遇を活かし実践する。
12	高齢者施設での見学実習の中で、医療コミュニケーションで学んだ接遇を活かし実践する。
13	高齢者施設での見学実習の中で、医療コミュニケーションで学んだ接遇を活かし実践する。
14	高齢者施設での見学実習の体験を共有し、コミュニケーションにおける自己課題を確認する。
15	学習の習熟度に合わせて補足とまとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和 2年度 OT学科					
		○							
授業科目名	解剖学 I (筋・骨格系)			担当者名		秋永 洋平			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1				授業時間数	前期 30	後期	前期	後期
授業概要	解剖学は正常な人体の形態と構造を研究する学問であり、各種疾患の病態、症状、治療法を理解するうえで必須の基礎科目である。解剖学 I は運動器系全般に関わる、骨・関節・靭帯・筋・神経系を中心に授業を進め、各名称やその役割について教授する。								
成績評価	・ 中間試験40%前後 ・ 期末試験60%前後								
その他	実務経験 (有 病院勤務)								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版	野村 巖 編	医学書院
参考図書	プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系 第3版	坂井建雄、松村譲児 監訳	医学書院

回数	授 業 計 画
1	解剖学総論：解剖学用語、
2	骨学総論：骨の形態、骨の構造、骨の血管と神経、骨の発生、骨のリモデリングについて
3	骨学各論：頭蓋、脊柱、胸郭の骨の名称と構造について
4	上肢の骨：上肢帯（鎖骨、肩甲骨）、自由上肢骨（上腕骨、橈骨、尺骨、手根骨、中手骨、指骨）の名称と構造について
5	下肢の骨：下肢帯（腸骨、坐骨、恥骨）、骨盤（骨盤の構造・性差）、自由下肢骨（大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨）の名称と構造について
6	関節靭帯総論：骨の連結、関節の構造と機能について
7	まとめ、復習
8	中間試験の実施と解説
9	下肢の筋：臀部～大腿部にある骨格筋の名称と構造について
10	下肢の筋：下腿～足部の名称と構造について
11	上肢の筋：肩甲帯周囲筋の名称と構造について
12	上肢の筋：腕部の筋の名称と構造について
13	体幹の筋：体幹筋の名称と構造について
14	筋の起始・停止、支配神経の覚え方について
15	まとめ、復習

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和 2年度 OT学科					
		○							
授業科目名	解剖学Ⅱ（脳・神経系）			担当者名		杉本 亙			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1				授業時間数	前期 30	後期	前期	後期
授業概要	作業療法の対象疾患には、脳血管障害、脳外傷、統合失調症、発達障害、認知症など様々な疾患がある。これらの疾患は神経系に何らかの異常を生じている。従って、作業療法を実践する上で主要疾患の理解のためにも神経系・感覚器系に関する解剖学的知識は重要となる。								
成績評価	中間試験（30%前後）、期末試験（70%前後）、								
その他	実務経験（有 病院勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版	野村 巖・編	医学書院
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	神経系総論：神経系の基本的な構成について理解する。
2	中枢神経系：脊髄の全体、横断面の構成、機能について理解する。
3	中枢神経系：脳幹、脳神経の基本的な構成・機能について理解する。
4	中枢神経系：小脳、大脳（間脳、大脳半球、大脳基底核、大脳辺縁系）の基本的な構成・機能について理解する。
5	中枢神経系：小脳、大脳（間脳、大脳半球、大脳基底核、大脳辺縁系）の基本的な構成・機能について理解する。
6	中枢神経系：大脳皮質の機能局在について理解する。
7	中枢神経系：上行性・下行性の神経路（伝導路）について理解する。
8	中枢神経系の復習、中間試験の実施と解説
9	末梢神経：脊髄神経、構成、皮節（デルマトーム）、腕神経叢について理解する。
10	末梢神経：自律神経系（交感神経、副交感神経）について理解する。
11	感覚器系：表皮と真皮の基本構造と皮膚感覚器について理解する。
12	感覚器系：特殊感覚（視覚、聴覚、平衡感覚、嗅覚、味覚）について理解する。
13	消化器系：口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸の構成・機能について理解する。
14	消化器系：肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜について理解する。
15	まとめ：復習と作業療法との関連事項について理解する。

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科			
		○		令和 2年度			
授業科目名	体表解剖学 I (触診: 上肢・体幹)			担当者名	檀 拓真		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次
単位数	1				授業時間数	前期	後期
						30	
授業概要	体表解剖・触察は各種疾患の病態や症状、人間の動作を理解するうえで、必須の知識・技術である。骨や関節、靱帯、筋系に関して、実際に触れて感じ、体感できるよう実技を交えながら授業を進める。						
成績評価	期末試験60%前後 実技試験40%前後						
その他	実務経験 (有 病院勤務)						

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	プロメテウス解剖学コアアトラス 第2版	坂井建雄、松村譲児・監訳	医学書院 2011
参考図書	骨格筋の形と触察法	河上 敬介	大峰閣 2016

回数	授 業 計 画
1	触察の基本（触察に用いる基本的手技）について学ぶ
2	上肢の筋（上肢帯の筋、上腕の筋）の作用および触察について学ぶ
3	上肢の筋（上肢帯の筋、上腕の筋）の作用および触察について学ぶ
4	上肢の筋（上肢帯の筋、上腕の筋）の作用および触察について学ぶ
5	上肢の筋（前腕の筋、手の筋）の作用および触察について学ぶ
6	上肢の筋（前腕の筋、手の筋）の作用および触察について学ぶ
7	上肢の筋（前腕の筋、手の筋）の作用および触察について学ぶ
8	体幹の筋（頭部の筋、頸部の筋）の作用および触察について学ぶ
9	体幹の筋（頭部の筋、頸部の筋）の作用および触察について学ぶ
10	体幹の筋（頭部の筋、頸部の筋）の作用および触察について学ぶ
11	体幹の筋（頭部の筋、頸部の筋）の作用および触察について学ぶ
12	胸部の筋、腹部の筋について作用および触察について学ぶ
13	背部の筋について作用および触察について学ぶ
14	実技試験
15	実技試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○			令和 2年度		OT学科			
授業科目名	体表解剖学Ⅱ（触診：下肢、他）					担当者名		檀 拓真			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				
授業概要	体表解剖・触察は各種疾患の病態や症状、人間の動作を理解するうえで、必須の知識・技術である。骨や関節、靱帯、筋系に関して、実際に触れて感じ、体感できるよう実技を交えながら授業を進める。										
成績評価	期末試験60%前後、実技試験40%前後										
その他	実務経験（有 病院勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	プロメテウス解剖学コアアトラス 第3版	坂井建雄 松村譲児	医学書院
参考図書	骨格筋の形と触察法	河上 敬介	大峰閣

回数	授 業 計 画
1	下肢の筋（下腿部）について作用および触察について学ぶ
2	下肢の筋（下腿部）について作用および触察について学ぶ
3	下肢の筋（下腿部）について作用および触察について学ぶ
4	下肢の筋（大腿部）について作用および触察について学ぶ
5	下肢の筋（大腿部）について作用および触察について学ぶ
6	下肢の筋（大腿部）について作用および触察について学ぶ
7	下肢の筋（大腿部）について作用および触察について学ぶ
8	下肢の筋（大腿部）について作用および触察について学ぶ
9	下肢の筋（足部）について作用および触察について学ぶ
10	下肢の筋（足部）について作用および触察について学ぶ
11	下肢の筋（臀部）について作用および触察について学ぶ
12	下肢の筋（臀部）について作用および触察について学ぶ
13	下肢の筋（臀部）について作用および触察について学ぶ
14	実技確認 まとめ①
15	実技確認 まとめ②

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校				
			○				令和 2年度		OT学科		
授業科目名	生理学Ⅰ（総論）					担当者名		出水 一美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					
授業概要	作業療法士は身体や精神の機能に障がいを持つ人々を対象として、それらの人が持つ機能を回復させる手伝いを行う一面を持つ。そのため身体内の諸臓器及び組織の機能を全体として理解しておく必要がある。本科目では、人間の植物機能（臓器系組織とその機能）について理解する。										
成績評価	中間試験（30%前後）、期末試験（70%前後）										
その他	実務経験（有 病院勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第4版	岡田隆夫, 長岡正範	医学書院
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	生命現象と人体について, 細胞の構造と機能について
2	循環器系（血管系①）
3	循環器系（血管系②）
4	循環器系（血管系③, リンパ）
5	心臓と循環について①
6	心臓と循環について②
7	呼吸器系（鼻, 咽頭, 喉頭, 気管と気管支, 肺）①
8	呼吸器系（鼻, 咽頭, 喉頭, 気管と気管支, 肺）②
9	まとめと中間試験
10	呼吸とガスの運搬①
11	呼吸とガスの運搬②
12	泌尿器系（腎臓, 尿管, 膀胱, 尿道の構造）
13	尿の生成と排出①
14	尿の生成と排出②
15	まとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
		○		令和 2年度 OT学科					
授業科目名	生理学Ⅱ（植物系）			担当者名		杉本 亙			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期
						30			
授業概要	脳機能をはじめとする神経系機能の情報伝達メカニズムについて、幅広く理解し、神経系・感覚器系に関する生理学的リハビリテーションによる機能回復について生理学的観点から学習する。								
成績評価	中間試験（30%）、期末試験（70%）								
その他	実務経験（有 病院勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版	岡田隆夫 他 執筆	医学書院 2018
参考図書	教科書以外の使用教材は、適宜配布する		

回数	授 業 計 画
1	神経系障害と作業療法：神経細胞の構造、興奮の発生と伝導の特徴について理解する。
2	神経系障害と作業療法：神経系の分類（中枢・末梢神経）と興奮の伝達の特徴について理解する。
3	中枢神経系の構成、機能 脊髄の構造、上行路と下行路、脊髄反射について理解する。
4	脳幹（中脳、橋、延髄）に関して、自律神経系の中核、各種反射の中核、姿勢制御、脳幹網様体について理解する。
5	小脳に関して、入出力に関係する経路や核、運動学習について、間脳に関して、感覚情報の中継核、ホメオスタシスの中核、内分泌機能と調節について理解する。
6	大脳皮質の機能局在とBrodmannの脳地図、前頭葉、側頭葉の機能、頭頂葉、後頭葉の機能について理解する。
7	脳の高次機能、側性化と神経ネットワークについて理解する。
8	学習の習熟度に合わせて補足、中間試験と解説。
9	大脳基底核と脳梁に関して、機能と関連する疾患。大脳辺縁系に関して、機能（本能行動、情動行動、Papez回路）に関して理解する。
10	脳室と脳脊髄液に関して、脳脊髄液の機能と産生から吸収までの流れ、血液脳関門の機能に関して理解する。
11	感覚に関して、各種感覚の種類、適刺激と閾値、Weberの法則、感覚の順応について理解する。
12	体性感覚（皮膚感覚、深部感覚）、内臓感覚（臓器感覚、内臓痛覚）、特殊感覚（視覚、聴覚、平衡感覚、味覚、嗅覚）について理解する。
13	神経系障害・疾患に関しての特徴、作業療法との関連事項について理解する。
14	神経系障害・疾患に関しての特徴、作業療法との関連事項について理解する。
15	学習の習熟度に合わせて補足、まとめ。

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 OT学科			
		○		令和 2年度			
授業科目名	生理学Ⅲ（動物系）			担当者名	南里 英幸		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次
単位数	1				授業時間数	前期	後期
						30	
授業概要	医学およびリハビリテーション学は、生理学などの基礎医学の上に成り立っている。動物機能と植物機能があり、それぞれの役割の概要について理解することを目的とする。						
成績評価	中間試験30%前後、期末試験70%前後						
その他	実務経験（有 病院勤務）						

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版	岡田隆夫 他	医学書院
参考図書			

回数	授業計画
1	PT・OTと生理学のかかわり、筋の収縮（筋の分類、骨格筋）について
2	筋の収縮（骨格筋の収縮-弛緩機構、滑走説、収縮エネルギー）について学ぶ
3	筋の収縮（筋紡錘とゴルジ腱器官）について学ぶ
4	筋の収縮（平滑筋）について学ぶ
5	神経系（神経系の構成、神経線維の興奮伝導）について学ぶ
6	神経系（神経の変性と再生、シナプス）について学ぶ
7	まとめ及び復習
8	中間試験の実施と解説
9	感覚（視覚）について学ぶ
10	感覚（聴覚と平衡感覚、味覚と嗅覚）について学ぶ
11	代謝と体温（栄養素）について学ぶ
12	代謝と体温（エネルギー代謝）について学ぶ
13	運動生理（筋収縮、筋力）について学ぶ
14	運動生理（呼吸、循環、発汗）について学ぶ
15	まとめ及び復習

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 2年度		OT学科			
授業科目名	運動学Ⅰ					担当者名		中島 喜代彦				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						60						
授業概要	解剖学・生理学・物理学（力学）の知識をもとに、「人間が運動できる仕組み」を構造や機能の面から学ぶ。 教育目標 (1)骨や筋の名称およびその役割を理解する (2)関節の構造と機能を理解する (3)生体力学からみた関節運動を理解する (4)脊髄レベルの神経と筋の関連を理解する (5)歩行ならびに姿勢制御の概要を理解する											
成績評価	期末試験、小テストなどを総合的に評価する											
その他	実務経験（有 病院勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	①基礎運動学 第6版補訂 ②プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系（第3版） ③PT・OTのための運動学ノート第2版	①中村隆一他②坂井建雄他③中島喜代彦他	①③医歯薬出版 ②医学書院
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	総論：(1)運動学とは (2)身体に働く種々の力 (3)人体の区分 (4)身体の面と軸
2	(5)骨および関節の名称：骨標本使用 (6)関節の運動方向
3	骨学総論：(1)骨の形態 (2)骨の基本構造
4	関節総論：(1)関節の分類とその特徴 (2)滑膜性関節の構造と構成体
5	骨学各論：(1)脊柱
6	骨学各論：(1)胸郭 (2)頭蓋
7	骨学各論：(1)肩甲帯 (2)上肢骨
8	骨学各論：(1)骨盤帯 (2)下肢骨
9	骨の指標に関する触察実習
10	筋学総論：(1)筋の形状 (2)骨格筋の構造 (3)骨格筋の収縮機序
11	筋学総論：(1)筋と支配神経 (2)筋の起始と停止 (3)筋収縮様態
12	筋学各論：肩甲帯から肩関節
13	筋学各論：肘関節から手指
14	筋学各論：骨盤帯から股関節
15	筋学各論：膝関節から足趾
16	筋学各論：体幹筋

OT運動学 I (2)

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 2年度		OT学科			
授業科目名	運動学Ⅱ					担当者名		中島 喜代彦				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							60					
授業概要	前期の運動学を通して得た知識をもとに、四肢・体幹の運動学的特徴を理解する。 教育目標 1. 各関節の構造と機能について説明ができる。 2. 各関節の安定性と運動性について説明ができる。											
成績評価	期末試験、小テストなどを総合的に評価する											
その他	実務経験（有 病院勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	①基礎運動学 第6版補訂 ②図解 関節・運動器の機能解剖 上肢・脊柱編 ③図解 関節・運動器の機能解剖 下肢編	①中村隆一編② J. Castaing, J. J. Santini 共著	①医歯薬出版 ②、③協同医書
参考図書	解剖学のテキスト		

回数	授 業 計 画
1	肩関節複合体：(1)基本概念 (2)機能的肢位 (3)肩の運動の定義と運動域
2	肩甲上腕機構：(1)肩甲上腕関節の構造 (2)腱板の安定化作用 (3)三角筋と棘上筋の共同作用
3	肩甲上腕機構：(4)肩の第2関節 (5)運動筋 (6)可動域
4	肩甲胸郭機構：(1)胸郭上を動く肩甲骨 (2)胸鎖関節 (3)肩鎖関節 (4)肩の2大機構による自動運動
5	肘関節：(1)基本概念 (2)腕肘関節 (3)腕橈関節 (4)関節包と靭帯 (5)関節の運動と可動域 (6)運動筋
6	前腕：(1)基本概念 (2)回内・回外機構の分析 (3)回内・回外機構の他動的要素 (4)回内・回外運動軸と運動筋
7	前腕：(1)日常生活活動における回内・回外 手関節：(1)基本概念 (2)関節形態と靭帯 (3)動きと筋
8	手指：(1)基本概念 (2)解剖学的名称 (3)関節形態と靭帯
9	手指：(4)運動の定義と可動域 (5)外来筋と内在筋の関係 (6)腱鞘 (7)屈筋機構と伸展機構の概略
10	手指：(8)伸展機構による指の伸展 (9)支靭帯による連動作用 (10)解放された指 (11)虫様筋 (12)爪の役割
11	脊柱：(1)基本概念 (2)椎骨の基本形態 (3)椎骨の部位別形態
12	脊柱：(4)脊椎の機能的単位 (5)椎間板—椎体複合体 (6)椎骨の誘導要素 (7)椎骨の制動要素
13	脊柱：(8)脊柱の運動筋と安定筋
14	脊柱：(9)脊柱の彎曲の成り立ち (10)脊柱の可動性
15	脊柱：(11)脊柱に加わる力 (12)脊柱管と椎間孔 (14)椎体の血管分布 (15)脊柱の退化
16	まとめ

[illegible]

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校				
			○				令和 2年度		OT学科		
授業科目名	人間発達学					担当者名		出水 一美			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				
授業概要	人間発達学は人を対象として、人が発達する存在である観点から理解する学問である。子どもに限ったものではなく、誕生から成長、成熟を経て、最終的に死を迎える成人や高齢者にも当てはまるものである。ひとのライフサイクルとそれに伴う課題や役割について理解をすることは、ひとの生活を考える上で、重要である。										
成績評価	期末試験 100%										
その他	実務経験（有 病院勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	イラストで分かる 人間発達学	上杉 雅之 監修	医歯薬出版株式会社
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	発達の原則、発達の重要性、運動発達について理解する。
2	発達理論の概念、エリクソン・ピアジェの発達理論について理解する。
3	発達検査の目的、方法を理解する。 発達障害を呈する主な疾患についての検査法選択、実施の概念を理解する。
4	原始反射、姿勢反射の概念・意義について理解する。 原始反射、姿勢反射の反射中枢、消失時期、検査方法について理解する。
5	原始反射、姿勢反射の反射中枢、消失時期、検査方法について理解する。
6	新生児期の運動発達について理解する。
7	乳幼児期の運動発達について理解する。
8	幼児期の運動発達について理解する。
9	上肢機能の発達、物の把握・保持機能、目と手の協調性について理解する。
10	ADLの発達（遊び、食事、排泄、更衣）について理解する。
11	ADLの発達（遊び、食事、排泄、更衣）について理解する。
12	感覚、知覚、認知の発達について理解する。
13	言語、社会性の発達について理解する。
14	学童期、青年期、成人・老年期における身体、運動、認知、心理及び社会性の発達学的特徴を理解する。
15	学習の習熟度に合わせて補足とまとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 3 年度		OT学科			
授業科目名	臨床心理学					担当者名		矢ヶ部 華世子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
								30				
授業概要	臨床心理学は、心理学の知識と技術を用いて心の不適応な状態あるいは病的状態についての支援を行う学問である。本講義では、作業療法士として患者と関わる中で、患者の心理を理解し、心理的適応援助に繋がる知識を身につける。											
成績評価	・ 期末試験 100%											
その他	実務経験（有 病院勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	よくわかる臨床心理学	山口 創	川島書店
参考図書	標準理学療法学・作業療法学 精神医学	上野 武治	医学書院

回数	授 業 計 画
1	精神機能の障害と精神症状（思考とその障害）について理解する。
2	精神機能の障害と精神症状（自我意識とその障害、知覚とその障害、感情とその障害、意識とその障害）について理解する。
3	精神機能の障害と精神症状（記憶とその障害、意志・欲動とその障害）について理解する。
4	統合失調症の特徴、分類、症状、経過と予後について理解する。
5	感情障害の概念、病型、経過について理解する。
6	てんかんの定義と概念、発作の症状・分類について理解する。
7	精神作用物質による精神および行動の概要、治療と援助について理解する。
8	前半のまとめ
9	神経症性障害の概念、不安や恐怖、強迫症について理解する。 ストレス関連障害、身体表現性障害について理解する。
10	パーソナリティ障害の背景、類型、治療と援助について理解する。
11	認知症の概念、原因分類、特徴について理解する。
12	防衛機制の種類や特徴について理解する。
13	心理療法の種類、役割について理解する。
14	面接の技法、転移や逆転移について理解する。
15	学習の習熟度に合わせて補足とまとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
		○		令和 2 年度 OT学科					
授業科目名	病理学概論					担当者名	杉本 亙		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期
							15		
授業概要	各種「障がい」の発生原因に「疾患＝病気」があります。病気を知るためには、その成り立ちは原因・経過を理解する必要があります。そのために「病理学」としての基本事項を教授します。								
成績評価	期末試験（100%）								
その他	実務経験（有 病院勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学		医学書院
参考図書	追加資料は適宜配布		

回数	授 業 計 画
1	病理学の概要、病因（外因・内因）について理解する。
2	退行性・進行性病変の種類や特徴について理解する。創傷・骨折治癒について説明できる。
3	代謝障害の種類や特徴、作業療法との関連事項について理解する。
4	循環障害の種類や特徴、作業療法との関連事項について理解する。
5	免疫の種類や特徴について理解する。急性・慢性炎症について説明できる。
6	腫瘍の種類や特徴、作業療法との関連事項について理解する。
7	老化、先天異常と奇形の種類や特徴、作業療法との関連事項について理解する。
8	病理学各論（循環器疾患・消化器疾患・呼吸器疾患）と作業療法との関連事項について理解し、学習の習熟度に合わせて補足。

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 3 年度		OT学科			
授業科目名	小児科学					担当者名		檀 拓真				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
								15				
授業概要	作業療法の分野は、療育やリハビリテーション、福祉の分野で小児と関りをもつことが多い。本講義では、国家試験に頻出する内容及び将来の臨床場面で役に立つ知識を得ることを目的とする。											
成績評価	期末試験（100％）											
その他	実務経験（有 病院勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 小児科学 第5版	富田 豊 編	医学書院
参考図書	適宜、配布・紹介する		

回数	授 業 計 画
1	小児科学概論について学ぶ
2	先天異常と遺伝病 染色体異常について理解する
3	神経・筋・骨系疾患（てんかん）について理解する
4	神経・筋・骨系疾患（発達障害）について理解する
5	神経・筋・骨系疾患（末梢神経性疾患）について理解する
6	感染症について理解する
7	内分泌・代謝疾患について理解する
8	免疫・アレルギー疾患について理解する

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○			令和 3 年度		OT学科			
授業科目名	内科学					担当者名		村谷 美里			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	高齢者を中心に「内科疾患」を持つ患者は少なくなく、直接それから機能障がい併発する場合もよく見られる。また、内科学は医学・医療の基本である。学ぶことは医師とPT・OTが患者を共通に理解するための道具であるため、内科学を通し、疾患の各論を学び知識を身につける。										
成績評価	期末試験100%										
その他	実務経験（有 病院勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版	前田眞治 他	医学書院
参考図書	P T ・ O T 基礎から学ぶ内科学ノート 第2版	中島雅美 他	医歯薬出版

回数	授 業 計 画
1	代謝系疾患（糖尿病）について、解剖生理を学習し、糖尿病の概要、病態、症状、合併症、治療について理解する。
2	内分泌系疾患（視床下部疾患、下垂体疾患、甲状腺疾患）について、内分泌腺の解剖生理を学習し、各疾患の機能の亢進・低下して起こる特徴を学ぶ。
3	内分泌系疾患（副甲状腺疾患、副腎皮質・髄質疾患、性腺疾患）について、各疾患の機能の亢進・低下して起こる特徴を学ぶ。
4	血液疾患（貧血、白血病）、膠原病（関節リウマチ等）について、必要な解剖生理学を学習し、疾患の概念や病態生理、症状、治療について学ぶ。
5	呼吸器疾患を学ぶにあたり、呼吸器系の解剖生理を復習し、閉塞性換気障害の概念、病理、症状、臨床所見について学習する。
6	呼吸器疾患である拘束性換気障害の概念、病理、症状、臨床所見について学習する。
7	呼吸器疾患である感染性肺疾患、その他疾患（肺がんを中心に）、異常呼吸の概念、病理、症状、臨床所見について学習する。
8	消化器疾患を学ぶにあたり、消化器系（口腔、咽頭、食道）の解剖生理を復習し、各消化器系疾患（口腔疾患、食道疾患）の概念、病理、症状、臨床所見について学習する。
9	消化器疾患を学ぶにあたり、消化器系（胃）の解剖生理を復習し、各消化器系疾患（胃疾患）の概念、病理、症状、臨床所見について学習する。
10	消化器疾患を学ぶにあたり、消化器系（小腸・大腸）の解剖生理を復習し、各消化器系疾患（小腸・大腸疾患）の概念、病理、症状、臨床所見について学習する。
11	消化器疾患を学ぶにあたり、消化器系（肝臓、胆嚢、膵臓）の解剖生理を復習し、各消化器系疾患（肝・膵疾患）の概念、病理、症状、臨床所見について学習する。
12	循環器疾患を学ぶにあたり、循環器（心臓血管）の解剖生理を復習し、各循環器疾患（高血圧症、虚血性心疾患）の概念、病理、症状、臨床所見について学習する。
13	各循環器疾患（心不全、弁膜疾患）の概念、病理、症状、臨床所見について学習する。
14	各循環器疾患（不整脈、大動脈疾患、末梢血管疾患）の概念、病理、症状、臨床所見について学習する。
15	授業で学んだことを振り返り示すことができ、過去の国家試験問題等を通して理解を深めることができる。

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 3 年度		OT学科			
授業科目名	栄養学					担当者名		笠木 理江				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
								15				
授業概要	人間が生まれてから死ぬまでを、栄養学の観点から理解することを目的とする。そのために、五大栄養素の働き、栄養素と食品との関係、日本人の食事摂取基準と食生活、治療食の種類と分類、食生活と生活習慣病の関係について、また、ライフサイクルと栄養について学習する。											
成績評価	授業で出す課題の内容評価，学習意欲，学習態度，定期試験などによって総合的に評価する。											
その他	有（学校勤務，病院勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	好きになるシリーズ、好きになる栄養学 第2版	麻見直美、塚原典子著	株式会社講談社
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	人体の構造（消化器官・細胞）について
2	食品に含まれる栄養素の種類とはたらき（主に三大栄養素）について
3	食品に含まれる栄養素の種類とはたらき（主にビタミン・ミネラル）について
4	ライフステージと栄養（妊婦、乳児期～学童期）について
5	ライフステージと栄養（思春期～高齢期、スポーツ栄養）について
6	治療食（食事療法）、病院食、栄養補給法について
7	疾患別食事療法について
8	栄養と生活習慣病、食生活の問題、食事摂取基準について

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校							
		○		令和 3 年度 OT 学科							
授業科目名	薬理学						担当者名		笠木 理江		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1 年次		2 年次		3 年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								15			
授業概要	薬剤の使用目的、効能、使用方法、禁忌事項などについて理解することを目的とする。具体的には、薬剤の使用目的については、疾患の原因を取り除く原因療法、体内に欠乏する物質を補う補充療法、疾患の原因を取り除くことができなくとも病気による不快な症状を取り除く対症療法、インフルエンザワクチンなどのような予防接種等について学習する。また、高血圧、糖尿病、精神病など、リハビリテーションの対象となる疾患のための薬物については、訓練との関係から禁忌事項などについても学習する。										
成績評価	普段の授業で出す課題の内容評価，学習意欲，学習態度，試験などによって総合的に評価する。										
その他	有（学校勤務，病院勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	特になし		
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	薬理学総論
2	薬理学各論：運動器系疾患治療に使用する薬物及び薬物療法
3	薬理学各論：呼吸・循環器系疾患治療に使用する薬物及び薬物療法
4	薬理学各論：神経系疾患治療に使用する薬物及び薬物療法
5	薬理学各論：代謝疾患治療に使用する薬物及び薬物療法
6	薬理学各論：アレルギー・炎症、呼吸器系疾患治療に使用する薬物及び薬物療法
7	薬理学各論：感染症・がん治療に使用する薬物及び薬物療法
8	臨床薬理学：薬害、薬物依存、スポーツと薬

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 2年度		OT学科			
授業科目名	老年医学					担当者名		村谷 美里				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						15						
授業概要	超高齢社会となった今、高齢者及び高齢者を抱える人々の支援はますます重要となり、また、健康高齢者にも焦点を当てる必要がある。そのため、老年期の基礎的な知識を理解し、作業療法の実践のための基礎的な知識及び介入方法の取得を目指す。											
成績評価	期末試験100%											
その他	実務経験（有 病院勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 老年期作業療法学	長崎重信、徳永千尋、田村孝司	メジカルビュー社
参考図書	標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学 第3版	松房利憲、新井健五	医学書院

回数	授 業 計 画
1	老年期の生活を学ぶにあたり、現在の日本の人口（高齢者の割合等）をはじめ、中年期および高齢者の健康について理解する。
2	老年期作業療法で、整形外科疾患の注意すべき疾患とリスクについて、疾患、高齢者に多い骨折について列挙することができ、リハビリテーションについて理解する。
3	老年期作業療法で、循環器疾患の注意すべき疾患とリスクについて、疾患の特徴を説明することができ、評価、ADL・IADL訓練を理解する。
4	老年期作業療法で、認知症の注意すべき疾患とリスクについて、認知症の全体像を理解し、疾患別の主な特徴を説明することができる。治療やケア等を理解する。
5	老年期作業療法で、老年期障害の一般的疾患について理解する。
6	高齢者に関する国家試験問題を解くことで、必要な知識（生理学含め）を把握することができる。
7	高齢者に関する国家試験問題の解答を通じ、発表に向けてグループごとに協調、参加し作成することができる。
8	高齢者に関する国家試験について、グループ発表を行い説明することができる。発表について自ら参加し、協調することができる。

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 2年度		OT学科			
授業科目名	整形外科科学					担当者名		檀 拓真				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							30					
授業概要	整形外科に特有の疾患を理解し、疾患の特徴をとらえる事を目的として行う。解剖学的知識なくしては整形外科科学は理解できないため、必要に応じて解剖の復習をしながら授業を進める。整形外科疾患に対する知識、理解を得ることで、評価、治療との関連を深めることを目的とする。											
成績評価	中間試験30%前後、期末試験70%前後											
その他	実務経験（有 病院勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション	神野哲也	羊土社
参考図書	標準整形外科科学	松野丈夫、中村利孝	医学書院

回数	授 業 計 画
1	肩（肩関節脱臼、上腕骨近位部骨折、胸郭出口症候群）について理解する
2	肘（肘関節脱臼、上腕骨顆上骨折）について理解する
3	骨盤、股関節（大腿骨近位部骨折、変形性股関節症）について理解する
4	手、手関節（橈骨遠位端骨折、舟状骨骨折、手根管症候群）について理解する
5	膝（前十字靱帯損傷、変形性膝関節症）について理解する
6	骨折疾患のレントゲンの見方について学ぶ
7	まとめ
8	中間試験の実施と解説
9	下腿、足関節（脛骨高原骨折、踵骨骨折）について理解する
10	下腿、足関節（シンスプリント、アキレス腱炎、足関節捻挫）について理解する
11	脊椎、脊髄（頸椎症、非特異的頸部痛）について理解する
12	脊椎、脊髄（胸椎・腰椎圧迫骨折、腰椎椎間板ヘルニア）について理解する
13	脊椎、脊髄（腰部脊柱管狭窄症、非特異的腰痛、脊柱側弯症）について理解する
14	関節リウマチについて理解する
15	まとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
		○		令和 3 年度 OT学科					
授業科目名	神経内科学			担当者名		秋永 洋平、善明 勇二			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期
							30		
授業概要	神経疾患による障害に対して作業療法を行なうためには、脳血管障害や認知症、パーキンソン病などの疾患に関する十分な知識をもつことが必要である。そのために、的確に障害を把握し、機能障害、活動制限、参加制約における障害に対する治療方針とゴールの決定ができて、リハビリテーションを円滑かつ効果的に進めていける幅広い知識を習得することを目的とする。								
成績評価	中間試験40%前後、期末試験60%前後								
その他	実務経験（有 病院勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版	川平和美 編	医学書院
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	神経内科学序論
2	【症候学】意識障害、頭痛、めまい、失神について学ぶ
3	【症候学】運動麻痺、錐体路症候、筋委縮について学ぶ
4	【症候学】錐体外路徴候、不随意運動について学ぶ
5	【症候学】運動失調、感覚障害について学ぶ
6	【症候学】高次脳機能障害の概念と分類について学ぶ
7	【症候学】嚥下障害、脳神経外科領域の疾患について学ぶ
8	中間試験の実施と解説
9	【各論】脳血管障害の症状と分類について学ぶ
10	【各論】認知症の症状と分類について学ぶ
11	【各論】脳腫瘍、外傷性脳損傷について学ぶ
12	【各論】脊髄疾患について学ぶ
13	【各論】錐体外路の変性疾患（パーキンソン病など）について学ぶ
14	【各論】筋疾患、感染性疾患について学ぶ
15	まとめ、復習

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 2年度		OT学科			
授業科目名	精神医学					担当者名		矢ヶ部 華世子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							30					
授業概要	臨床及び国家試験で問われている精神疾患の知識の獲得を主な目的とする。精神医学の概要から各論の各疾患の知識、及び精神分野の評価や治療などについて学習する。											
成績評価	・ 中間試験 40% ・ 期末試験 60%											
その他	実務経験（有 病院勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 精神医学 第4版	編集 上野 武治	医学書院
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	精神医学の定義、概念、精神障害の成因、分類について理解する。 精神医学の歴史について理解する。
2	統合失調症の発生機序、特徴、病型について理解する。 統合失調症の症状、障害について理解する。
3	統合失調症の病期、回復過程に応じた治療・リハビリテーションについて理解する。
4	気分障害の概念、捉え方について理解する。 うつ病の特徴、評価尺度、発症の機制について理解する。
5	躁うつ病の発生機序、病態、病型について理解する。
6	神経症性障害の概念、不安や恐怖、強迫症について理解する。 ストレス関連障害、身体表現性障害について理解する。
7	前半のまとめと中間試験
8	生理的障害および身体的要因に関連した障害の概要、治療と援助について理解する。
9	パーソナリティ障害の背景、類型、治療と援助について理解する。
10	精神作用物質による精神および行動の障害の概要、治療について理解する。
11	てんかんの定義、発作症状と精神症状、経過と予後について理解する。
12	精神遅滞の概念、分類、社会的処遇について理解する。
13	広汎性発達障害の特性、行動障害について理解する。
14	認知症の概念、類型、症状について理解する。
15	学習の習熟度に合わせて補足とまとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和 2年度 OT学科					
		○							
授業科目名	リハビリテーション医学			担当者名		村谷 美里			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期
							30		
授業概要	超高齢社会を迎えてリハビリテーション医療はさらなる充実が求められており、リハビリテーションの総論から評価、各疾患の概念とリハビリテーションの対策を学ぶ必要がある。また、リハビリテーションに欠かすことのできないICFのレベルとそれぞれの関係性を通じて、リハビリテーションの基礎知識を学ぶ。								
成績評価	期末試験100%								
その他	実務経験 有（老年期分野勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	リハビリテーション医学テキスト（改訂第4版）	出江紳一、加賀谷 齊	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	リハビリテーション医学総論は、概論で学んだリハビリテーションの定義を復習、示すことができる。障害と3つのレベルについて説明することができる。
2	リハビリテーション医学における診断・評価と治療①について、障害を評価する目的と方法を、障害の項目ごとに理解することができる。
3	リハビリテーション医学における診断・評価と治療②について、障害を評価する目的と方法を、障害の項目ごとに理解することができる。
4	脳血管障害（①）について、疾患の概念をはじめ病型分類と発症原因を説明することができる。
5	脳血管障害（②）について、損傷部位とその症状の特徴を理解することができる。また、急性期のリハビリテーションおいてのリスクを理解することができる。
6	脳外傷について、疾患の概念をはじめ、障害の構造、問題点について説明することができる。
7	脊髄疾患の病態について理解することができる。また、完全麻痺と不全麻痺の違いについて理解することができる。
8	関節リウマチとその近縁疾患（①）の疾患概念および障害内容・経過について理解することができる。また、診断基準や評価について理解することができる。
9	関節リウマチとその近縁疾患（②）の障害構造とリハビリテーションについて理解することができる。
10	神経筋疾患（パーキンソン病、多発性硬化症）について、疾患の概念をはじめ、障害構造、評価、リハビリテーション治療について理解することができる。
11	神経筋疾患（重症筋無力症、筋萎縮性側索硬化症）について、疾患の概念をはじめ、障害構造、評価、リハビリテーション治療について理解することができる。
12	内部疾患（心疾患、呼吸器疾患）について、疾患の概念をはじめ、リハビリテーションの重要性を理解することができる。
13	高齢者のリハビリテーション（①）について、概要をはじめ高齢者の特性を理解することができる。また、サルコペニアやフレイルといった言葉について学ぶ。
14	高齢者のリハビリテーション（②）について、進め方（障害の評価、問題点・留意点、転倒予防等）を理解することができる。
15	授業で学んだことを国家試験問題等を通し、示すことができる。

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和 2年度 OT学科					
		○							
授業科目名	リハビリテーション概論				担当者名		笠木 理江		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期 30	後期	前期	後期
授業概要	作業療法士はリハビリテーションの理念に基づいて対象者の健康を支援する専門職である。よって、リハビリテーションの定義と理念、歴史的背景といった基本的な概略について理解しておくことは重要である。この科目では、リハビリテーションの定義と理念、歴史的背景、多職種理解と連携について教授する。								
成績評価	期末試験にて評価する								
その他	有（学校勤務、病院勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	なし		
参考図書	リハビリテーション概論（医学生・コメディカルのための手引書 改訂第3版）	上好 昭孝、田島 分博	永井書店

回数	授 業 計 画
1	リハビリテーション（Rehabilitation）の定義、理念、歴史的背景
2	リハビリテーションの対象
3	関係法規、倫理
4	リハビリテーションの流れ、障害受容
5	基本動作、日常生活動作（ADL）、日常関連動作（IADL）；概念と定義
6	国際生活機能分類（ICF）について
7	基本的治療介入（コミュニケーションの基礎）
8	基本的治療介入
9	基本的治療介入
10	多職種連携、関連職種の理解
11	多職種連携、関連職種の理解（グループワーク）
12	多職種連携、関連職種の理解（発表）
13	多職種連携、関連職種の理解（他職種の方より講義予定）
14	多職種連携、関連職種の理解（他職種の方より講義予定）
15	まとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 2年度		OT学科			
授業科目名	医療保健福祉制度論					担当者名		杉本 亙				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							30					
授業概要	医療職種となりそれを生業とする上で、関係する法制度は理解しておかなければならない。 作業療法士として、日本における医療・保険・福祉の法制度を理解し活用できる基本的な知識を身につける。											
成績評価	期末試験（100％）											
その他	実務経験（有 病院勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	標準作業療法学 専門分野 地域作業療法学 第3版	小川恵子・編	医学書院
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	社会保障制度の枠組みと、変遷について理解する。
2	医療保険制度の概略と病院の種類について理解する。
3	作業療法に関して、診療報酬の内容および算定の方法について理解する。
4	介護保険制度における作業療法士:介護保険制度の概略と仕組みについて理解する。
5	介護保険制度における作業療法士:介護予防施策、介護予防の実践について理解する。
6	介護保険制度における作業療法士:介護保険において作業療法士が関わる事業、役割について理解する。
7	介護保険制度における作業療法士:介護保険において作業療法士が関わる事業、役割について理解する。
8	障害者総合支援法における作業療法士:障害者総合支援法の概略、障害支援区分、障害者福祉サービスについて理解する。
9	障害者総合支援法における作業療法士:就労移行・就労継続支援と補装具・日常生活用具について理解する。
10	障害者総合支援法における作業療法士:障害者総合支援法において作業療法士が関わる事業、役割について理解する。
11	障害者総合支援法における作業療法士:障害者総合支援法において作業療法士が関わる事業、役割について理解する。
12	記録・関係帳簿について理解する。
13	同意・契約及び指導・監査について理解する。
14	日頃の診療・ケアに関する重要事項について理解する。
15	学習の習熟度に合わせて補足、まとめ。

[illegible]

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○	令和 2年度	OT学科				
授業科目名	基礎作業学 I			担当者名	矢ヶ部 華世子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1				授業時間数	前期 30	後期	前期	後期
授業概要	作業療法を实践するうえで作業（Occupation）に対する基本的な理解をしておくことは重要である。この授業科目では、作業（Occupation）が本来持っている言葉の意味を理解した上で、作業療法学における作業（Occupation）の定義、分類、治療的应用といった基本的事項を理解する。 また、実際の作業（遂行）実践を体験し、理解を深めて作業療法実践力の向上を高める。								
成績評価	・ 期末試験 70% ・ 課題提出 30%								
その他	実務経験（有 病院勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	作業－その治療的应用 改訂版 2 版	日本作業療法士協会編集	協同医書出版
参考図書	「作業」って何だろう	吉川 ひろみ	医歯薬出版株式会社

回数	授 業 計 画
1	作業療法で治療手段として用いる「作業」の意味を理解する。
2	自己の作業歴を振り返り、作業の持つ力を理解する。
3	作業を目的により分類し、理解を深める。
4	作業のもつ階層性について理解する。
5	自己の生活の作業バランスを知り、作業バランスの必要性を理解する。
6	フローモデル、トップダウンとボトムアップなど作業の治療的应用を理解する。
7	七夕飾り作りを通して、作業の治療的应用を体験し理解する。
8	革細工でのキーケース作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
9	革細工でのキーケース作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
10	革細工でのキーケース作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
11	刺し子手芸でのふきん作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
12	刺し子手芸でのふきん作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
13	刺し子手芸でのふきん作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
14	絵手紙作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
15	まとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
					○		令和 2年度		OT学科			
授業科目名	基礎作業学Ⅱ					担当者名		矢ヶ部 華世子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							30					
授業概要	作業療法士の治療手段は、「作業」である。作業療法における作業とは対象者が主体的な生活を構築するための人が行う全ての活動を指す。臨床場面でよく利用される手工芸について実習を通して主体的に学んでいく。											
成績評価	・ 作品及び課題の提出 50%前後 ・ 期末試験 50%前後											
その他	実務経験（有 病院勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	作業－その治療的応用 改訂版 2 版	日本作業療法士協会編集	協同医書出版
参考図書	作業活動 実習マニュアル 第2版	監修 古川 宏	医歯薬出版株式会社

回数	授 業 計 画
1	はり絵での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
2	はり絵での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
3	はり絵での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
4	はり絵での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
5	タイルモザイクでの作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
6	タイルモザイクでの作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
7	タイルモザイクでの作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
8	タイルモザイクでの作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
9	タイルモザイクでの作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
10	アンデルセン手芸での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
11	アンデルセン手芸での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
12	アンデルセン手芸での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
13	アンデルセン手芸での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
14	アンデルセン手芸での作品作りを通して、準備物品、作製工程、後片付けなど一連の流れを理解する。
15	学習の習熟度に合わせて補足、まとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
					○		令和 3 年度		OT学科			
授業科目名	作業学実習					担当者名		笠木 理江				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数				1	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
								30				
授業概要	・ 作業療法における重要な視点を具体的な作業を通して学ぶ。 ・ 様々な作業療法場面で用いられる作業活動と評価（分析、解釈）、介入方法を具体的に知る											
成績評価	課題レポートおよびレクリエーションの企画立案、実施、振り返りなどにて総合的に評価する。											
その他	有（学校勤務，病院勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	作業－その治療的応用 改訂版 2 版	日本作業療法士協会編集	協同医書出版
参考図書	作業活動 実習マニュアル 第2版	監修 古川 宏	医歯薬出版株式会社

回数	授 業 計 画
1	1) 日常生活に必要な行動、認知の分析の実施 ・障害設定を行い、体験を通して分析ができる 2) 高齢者施設での集団レクリエーションの企画立案、実施 ①レクリエーション活動における作業療法の意義を理解できる ②レクリエーションの基本概念、実施する上での要点、配慮する点などを理解できる ③対象者に合わせたレクリエーションの企画立案、実施、振り返りができる
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
					○		令和 2年度		OT学科			
授業科目名	作業療法理論					担当者名		矢ヶ部 華世子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
								30				
授業概要	作業療法の臨床実践では、理論に基づいた実践、エビデンスに基づいた実践が求められている。この授業科目では人間作業モデルの概念、生活行為向上マネジメントなどの実践例を通して作業療法実践理論について解説する。											
成績評価	期末試験(100%)											
その他	実務経験（有 病院勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	資料配布		
参考図書	適宜, 配布・紹介する		

回数	授 業 計 画
1	総論(理論の定義、理論の必要性)について理解する。
2	人間作業モデル概要について理解する。
3	人間作業モデルの各論(意志)について理解する。
4	人間作業モデルの各論(習慣化)について理解する。
5	人間作業モデルの各論(遂行能力)について理解する。
6	人間作業モデルの各論(環境)について理解する。
7	事例を通して人間作業モデルを理解する
8	生活行為マネジメントの概要について理解する
9	生活行為マネジメントの概要について理解する
10	事例を通して生活行為向上マネジメントを理解する
11	事例を通して生活行為向上マネジメントを理解する
12	事例を通して生活行為向上マネジメントを理解する
13	作業科学の概要を理解する
14	COPM(カナダ作業遂行測定)の概要を理解する
15	学習の習熟度に合わせて補足とまとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 3 年度		OT学科			
授業科目名	作業療法研究法					担当者名		檀 拓真			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									15		
授業概要	これまで学習及び経験してきた作業療法についての知識と技術の統合を図り、作業療法研究につなげることを目的とする。また、積極的にディスカッションを取り入れ、幅広い知識を共有する。										
成績評価	学内における発表（P Cまたはポスターなど）にて総合的に評価する。										
その他	実務経験（有 病院勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	作業療法研究法マニュアル	日本作業療法士協会	日本作業療法士協会
参考図書	PT・OTのための臨床研究はじめての一步	山田実	羊土社

回数	授 業 計 画
1	研究の倫理について
2	個人情報保護について
3	量的研究について
4	質的研究について
5	事例研究について
6	統計について
7	統計解析について
8	代表値について（平均値、中央値、最終地）
9	代表値について（事例）
10	正規分布について
11	サンプル抽出について
12	相関関数について
13	回帰分析について
14	発表とまとめ
15	発表とまとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和3年度 OT学科					
			○						
授業科目名	作業療法管理学					担当者名	笠木 理江		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期
								30	
授業概要	医療・介護に関わる作業療法士として、職場管理において求められる管理業務の基本、臨床教育の基本について理解する。								
成績評価	課題提出状況、授業の取り組み方、定期試験などを総合的に判断し評価する。								
その他	有（学校勤務、病院勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	作業療法管理学入門	大庭潤平	医歯薬出版
参考図書	理学療法管理学 作業療法ガイドライン	奈良勲 作業療法士協会	医歯薬出版

回数	授 業 計 画
1	作業療法と組織
2	作業療法におけるマネジメント
3	作業療法におけるサービス
4	作業療法と多職種連携
5	作業療法と諸制度
6	作業療法の診療記録と管理
7	作業療法と医療安全
8	作業療法士の職業倫理
9	作業療法業務の実際（人材育成の重要性）
10	作業療法業務の実際（ストレス管理）
11	作業療法業務の実際（環境管理、物品管理）
12	作業療法士育成教育の歴史と内容
13	臨床実習における目標、理解
14	生涯学習制度
15	まとめ

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版	能登真一、山口 昇、玉垣 努ら	医学書院
参考図書	PT・OT入門 イラストでわかる評価学	上杉 雅之、西守 隆ら	医歯薬出版

[illegible]

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 2年度		OT学科			
授業科目名	身体機能評価学演習Ⅰ					担当者名		秋永 洋平			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				
授業概要	評価は医療行為を実施するために必要不可欠な要素である。作業療法における評価は、対象者の状態やニーズを様々な手段を用いて調べ、問題点や利点を把握することを目的とする。評価学演習Ⅰでは特に、人体の関節可動域、筋力を測定することに必要な知識、技術を教授する。										
成績評価	実技試験、筆記試験にて総合的に判断する										
その他	実務経験（有 病院勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	①PT・OTのための測定評価 ROM測定 第2版 ②新・徒手筋力検査法 原著第9版	①監修 福田修 ②著 Helen J. Hislop	①三輪書店 ②協同医書出版社
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション、評価学の意義・目的、手段について
2	【ROM】上肢 肩甲帯：屈曲、伸展、挙上、引き下げ
3	【ROM】上肢 肩関節：屈曲、伸展、外転、内転
4	【ROM】上肢 肩関節：外旋、内旋、水平屈曲、水平伸展
5	【ROM】上肢 肘関節：屈曲、伸展 前腕：回内、回外 手関節：背屈、掌屈、橈屈、尺屈
6	【ROM】上肢 母指：橈側外転、掌側外転、屈曲、伸展 手指：屈曲、伸展、外転、内転
7	【ROM】下肢 股関節：屈曲、伸展、外転、内転、外旋、内旋
8	【ROM】下肢 膝関節：屈曲、伸展 足関節：底屈、背屈、外返し、内返し、外転、内転
9	【MMT】上肢 肩甲帯：屈曲、伸展、挙上、下制
10	【MMT】上肢 肩関節：屈曲、伸展、外転、内転、外旋、内旋、水平屈曲、水平伸展
11	【MMT】上肢 肘関節：屈曲、伸展 前腕：回内、回外 手関節：背屈、掌屈、橈屈、尺屈
12	【MMT】上肢 手指：母指、MP/DIP/PIP 他
13	【MMT】下肢 股関節：屈曲、伸展、外転、内転、外旋、内旋 膝関節：屈曲、伸展
14	【MMT】下肢 足関節：底屈、背屈、外返し、内返し、外転、内転 他
15	まとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 3 年度		OT学科			
授業科目名	身体機能評価学演習Ⅱ					担当者名		秋永 洋平			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	作業療法評価は作業療法過程の第一歩であり、その目的は対象者がおかれた現状を把握することである。そのために、身体機能に関して作業療法で使用されている評価と評価法に関する知識および技法を、理論・演習を通して学習する。 また、それらが各領域での実践において、どのような意味をもつものであるかについても学ぶ。										
成績評価	・ 期末試験100%										
その他	実務経験（有 病院勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版	能登真一 編	医学書院
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	形態計測の目的、意義、種類について
2	形態計測の測定方法と実技
3	感覚検査の目的、意義、種類について
4	感覚検査の方法と実技
5	反射検査の目的、意義、種類について
6	反射検査の方法と実技
7	筋緊張検査の目的、意義、種類、方法について
8	協調性検査の目的、意義、種類、方法について
9	脳神経検査の目的、意義、種類について
10	脳神経検査の方法と実技
11	上肢機能検査の目的、意義、種類について
12	上肢機能検査の方法と実技
13	日常生活活動の目的、意義、種類について
14	日常生活活動の方法と実技
15	まとめ、復習

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○	令和 3 年度	OT学科				
授業科目名	精神・認知機能評価学演習			担当者名	矢ヶ部 華世子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期
							30		
授業概要	“作業療法評価は作業療法過程の第一歩であり、その目的は対象者がおかれた現状を把握することである。そのために、精神機能に関して作業療法で使用されている評価と評価法に関する知識および技法を、理論・演習を通して学習する。 精神分野における、情報収集、焦点化（問題点の把握）、について学習する。精神分野の評価を総合的に理解し、説明できることを目的とする。								
成績評価	・期末試験 100%								
その他	実務経験（有 病院勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	ゴールドマスター・テキスト 精神障害作業療法 学 改訂第2版	監修 長崎重信	メジカルビュー社
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション、精神障害者について理解を深める。
2	実習報告会におけるレジュメを用いて振り返り、今後学んでいく評価についての重要性和ポイントについて理解する。
3	精神科医療のあゆみを知り、精神科医療の現状を理解する。
4	長期入院の現状を知り、長期入院に至る要因について理解する。
5	精神科作業療法を実施する上で、評価の流れを理解する。また、対象者を理解するために他職種からの情報収集の大切さを学び、評価手段である観察のポイントを理解する。
6	評価手段である面接の意味、実施する上での配慮、流れなどを理解する。
7	検査方法の目的、内容を理解する。また、興味チェックリストの意味合い、実施内容などを理解した上で、実施する。
8	精神分析における集団理論、社会心理学における集団理論、作業療法における集団理論について理解をする。
9	HTPテスト、精神障害ケアアセスメントの目的、内容を理解する。
10	日常生活行動評価、職業関連評価の目的、内容について理解する。
11	実習報告会におけるレジュメを用いて振り返り、学んだ評価についての重要性和ポイントについて理解する。
12	事例を用いて評価手段（情報収集、観察、面接、検査）から得られた評価内容をまとめ、対象者の全体像を捉え、治療計画（治療目標、治療構造）を設定する。
13	事例を用いて評価手段（情報収集、観察、面接、検査）から得られた評価内容をまとめ、対象者の全体像を捉え、治療計画（治療目標、治療構造）を設定する。
14	事例を用いて評価手段（情報収集、観察、面接、検査）から得られた評価内容をまとめ、対象者の全体像を捉え、治療計画（治療目標、治療構造）を設定する。
15	評価実習を見据えて、クリニカルクラークシップ型臨床実習の特徴を知り、注意すべきポイントなどを理解する。

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○	令和 3 年度	OT学科				
授業科目名	作業分析学演習			担当者名	矢ヶ部 華世子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期
							30		
授業概要	作業療法的手段として用いられる「作業」の概念を理解した上で、作業の特性、治療的応用（治療目的、治療適応となる対象者、期待される効果、留意点）などを学ぶことを目的とする。								
成績評価	期末試験 100%								
その他	実務経験（有 病院勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	作業－その治療的応用 改訂版 2 版	日本作業療法士協会編集	協同医書出版
参考図書	作業活動 実習マニュアル 第2版	監修 古川 宏	医歯薬出版株式会社

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション、作業の特性の再復習
2	革細工について①
3	革細工について②
4	手芸について①
5	手芸について②
6	タイルモザイクについて①
7	タイルモザイクについて②
8	木工について①
9	木工について②
10	陶芸について①
11	陶芸について②
12	はり絵（紙細工）について①
13	はり絵（紙細工）について②
14	散歩、外出について①
15	散歩、外出について②

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 3年度		OT学科			
授業科目名	日常生活活動学					担当者名		村谷 美里			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	日常生活活動（ADL）はリハビリテーションにおいて重要な領域であり、特に身辺処理（Selfcare）は長年作業療法士が担当してきた部分でもある。本教科では、ADLの具体的内容、評価から治療までの過程にいたるまでを理解する。										
成績評価	期末試験：100%										
その他	実務経験 有（老年期分野勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 日常生活活動学（ADL）	長崎重信、木之瀬隆 他	メジカルビュー社
参考図書	①ADLとその周辺 評価・指導・介護の実際 第3版 ②新版 日常生活活動（ADL）評価と支援の実	①水落和也ら ②伊藤俊之ら	①医学書院 ②医歯薬出版

回数	授 業 計 画
1	日常生活活動とはについて、ADLの領域（BADL、IADL）について説明することができる。評価の歴史について学び、評価法を列挙することができる。
2	基本動作（起居移動動作）の概要を学び、動作を分析することができる。それぞれの動作に対する自立支援について学ぶ。
3	基本動作（食事・排泄動作）の概要を学び、動作を分析することができる。それぞれの動作に対する自立支援について学ぶ。
4	基本動作（入浴・更衣動作）の概要を学び、動作を分析することができる。それぞれの動作に対する自立支援について学ぶ。
5	基本動作（整容動作）の概要を学び、動作を分析することができる。それぞれの動作に対する自立支援について学ぶ。
6	応用動作について、調理動作・家事動作の全体像を学び、必要な機能や動作を理解することができる。
7	応用動作について、外出、余暇活動の全体像を学び、必要な機能や動作を理解することができる。
8	障害別（片麻痺）のADLについて、障害の概要、治療・指導・支援について理解し、実際の動作を模倣することができる。
9	障害別（片麻痺）のADLについて、セルフケア（食事・整容・更衣・排泄・入浴）について理解し、実際の動作を模倣することができる。
10	障害別（脊髄損傷）のADLについて、教科書の事例の支援を基に全体像を把握することができる。随時、損傷レベルごとのADL動作の支援について学ぶ。
11	障害別（脊髄損傷）のADLについて、損傷レベルごとのADL支援について学ぶ。
12	障害別（前腕切断者）のADLについて、教科書の事例の支援を基に全体像を把握することができる。障害別（脊髄小脳変性症）のADLについて、障害の概要を理解する。
13	障害別（関節リウマチ）のADLについて、障害の概要、治療・支援・指導について理解し、ADLの実際、住環境整備について学ぶ。
14	障害別（ALS、パーキンソン病）のADLについて、障害の概要を理解し、ADLの実際について学ぶ。
15	障害別（認知症高齢者）のADLについて、概念、日常生活での問題を学び、ADLの支援の実際を学ぶ。今まで学習してきた内容を復習し、理解を深めることができる。

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○	令和 3 年度 OT学科					
授業科目名	義肢装具学			担当者名		檀 拓真			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期
							30		
授業概要	義肢とは四肢の物質的な欠損を代償するものである。ここでは、国家試験に頻出される義肢、車椅子の名称、使用方法などを総合的に理解し、説明できることを目的とする。また、スプリント作成などの実技も実施する。								
成績評価	期末試験80%前後、課題作成（スプリント）20%前後								
その他	実務経験（有 病院勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	義肢装具学 第4版	川村次郎、陳隆明、古川宏、林義孝	医学書院 2014
参考図書	義肢装具のチェックポイント 基本スプリントの作りかた	日本整形外科学会 監修 山口淳	医学書院 2015 医歯薬出版株式

回数	授 業 計 画
1	義肢総論について学ぶ
2	義手の名称、適応について理解する
3	下腿義足・大腿義足の名称、適応について理解する
4	装具総論について学ぶ
5	スプリントについて学ぶ
6	スプリント作成（リングスプリント）を行う
7	スプリント作成（カックアップスプリント）を行う
8	スプリント作成（母指対立スプリント）を行う
9	スプリント作成（良肢位保持スプリント）を行う
10	脳卒中片麻痺の装具の名称、適応について理解する
11	小児装具-股関節装具の名称、適応について理解する
12	体幹装具の名称、適応について理解する
13	杖・歩行補助具について理解する
14	車いすの名称、適応について理解する
15	まとめ、復習

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○	令和 3 年度 OT 学科					
授業科目名	身体障害作業治療学 I (整形)			担当者名		檀 拓真			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期
								30	
授業概要	整形外科学の知識を基盤とし、応用的に評価、実践につなげる知識、技術を得ることを目的とする。適切な治療を行うためには、確実な評価が必要であり、実技を交え、講義を行う。知識を確実なものにするため、説明、実施できることを目標とする。								
成績評価	中間試験30%前後、期末試験70%前後								
その他	実務経験 (有 病院勤務)								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	身体機能作業療法学 第3版	岩崎テル子 編	医学書院 2016
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	身体機能作業療法学の枠組みについて学ぶ
2	関節可動域の維持・拡大について理解する
3	筋力と筋持久力の維持・増強について理解する
4	感覚・知覚再教育・廃用症候群とその対応について理解する
5	頸髄損傷と作業療法士について理解する (評価)
6	頸髄損傷者の作業療法について理解する (治療)
7	末梢神経損傷と作業療法について理解する
8	中間試験と解説
9	熱傷の特徴、評価について理解する
10	関節リウマチの評価について理解する (評価)
11	関節リウマチの治療について理解する (治療)
12	自助具について理解する
13	骨・関節疾患について理解する (評価)
14	骨関節疾患に対する援助・指導方法について理解する (治療)
15	まとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 3 年度		OT学科			
授業科目名	身体障害作業治療学Ⅱ（中枢）					担当者名		杉本 亙			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	身体機能障害の中枢、内部疾患に関して、作業療法の特性を生かした治療・指導・援助の方法を学習する。また、職業関連や日常生活に必要な作業遂行能力との結びつきについても学ぶ。身体障害作業療法学Ⅱは、中枢疾患、神経筋疾患、内部疾患を中心として学習をする。										
成績評価	中間試験（30%前後）、期末試験（70%前後）										
その他	実務経験（有 病院勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版（¥5,400 税込）	山口 昇、玉垣 努 編集	医学書院
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	脳血管障害①：代表的な脳血管障害について理解し、急性期の作業療法について知る。
2	脳血管障害②：機能回復のメカニズム、機能的予後について理解する。
3	脳血管障害③：回復期・維持期の作業療法評価と治療について知る。
4	頭部外傷：頭部外傷の分類や特徴について理解し、作業療法評価と治療について知る。
5	神経変性疾患①：パーキンソン病の特徴について理解し、作業療法評価と治療について知る。
6	神経変性疾患②：脊髄小脳変性症の特徴について理解し、作業療法評価と治療について知る。
7	神経変性疾患③：筋萎縮性側索硬化症の特徴について理解し、作業療法評価と治療について知る。
8	学習の習熟度に合わせ補足、中間試験の実施と解説。
9	神経筋疾患：多発性硬化症の特徴について理解し、作業療法評価と治療について知る。
10	呼吸器疾患の特徴、リスク、予後について理解する。
11	呼吸器疾患の作業療法評価と治療について知る。
12	糖尿病の特徴、リスク、予後について理解し、作業療法評価と治療について知る。
13	心疾患の特徴、リスク、予後について理解し、作業療法評価と治療について知る。
14	ターミナルケア（終末期がん）の特徴、リスクについて理解し、作業療法評価と治療について知る。
15	まとめ、学習の習熟度に合わせ補足。

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○	令和 3 年度	OT学科				
授業科目名	身体障害作業治療学演習			担当者名	秋永 洋平				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期
							30		
授業概要	作業療法は、情報収集、評価結果から達成すべき課題の抽出、作業療法目標立案、治療プログラム立案の一連の過程における相互の関連性に気づき、理解することが重要である。身体障害領域において作業療法で関わる機会の多い脳血管障害、骨・関節疾患を中心として、ケース・スタディを通してその一連の思考過程を教授する。								
成績評価	期末試験、ケース・スタディのレポートから総合的に判断する								
その他	実務経験（有 病院勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版	山口昇、玉垣努 編集	医学書院
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	脳血管障害に対するROM評価 ①（筋緊張の変化、疼痛に対して）
2	脳血管障害に対するROM評価 ②（筋緊張の変化、疼痛、ROM制限が生活に及ぼす影響）
3	脳血管障害に対するROM評価結果に対する解釈とアプローチ
4	脳血管障害に対する反射・感覚検査 ①（反射異常、感覚異常に対して）
5	脳血管障害に対する反射・感覚検査 ②（反射異常、感覚異常が生活に及ぼす影響）
6	脳血管障害に対する反射・感覚の異常に対する解釈とアプローチ
7	脳血管障害に対するBr. stage評価 ①（連合反応、共同運動、痙性麻痺に対して）
8	脳血管障害に対するBr. stage評価 ②（連合反応、共同運動、痙性麻痺が生活に及ぼす影響）
9	脳血管障害に対するBr. stage評価結果に対する解釈とアプローチ ①（グループワーク）
10	脳血管障害に対するBr. stage評価結果に対する解釈とアプローチ ②（資料作成）
11	整形外科疾患（骨折後および神経損傷）に対するMMT評価 ①（筋力低下に対して）
12	整形外科疾患（骨折後および神経損傷）に対するMMT評価 ②（筋力低下が生活に及ぼす影響）
13	整形外科疾患（骨折後および神経損傷）に対するMMT評価結果に対する解釈 ①（グループワーク）
14	整形外科疾患（骨折後および神経損傷）に対するMMT評価結果に対する解釈 ②（資料作成）
15	まとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○	令和 3 年度	OT学科				
授業科目名	高次脳機能障害作業治療学			担当者名	笠木 理江				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期
							30		
授業概要	高次脳機能障害に対する作業療法実践に関する基本的知識と技術を獲得することを一般目標として、高次脳機能障害の概要、脳の機能解剖、画像の見かた、障害像、評価、アプローチの一連について教授する。								
成績評価	中間試験（30%前後）、期末試験（70%前後）にて評価する								
その他	有（学校勤務、病院勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 高次脳機能作業療法学 改訂第2版 病気がみえる vol.7（脳・神経）第2版	長崎重信（監修）、鈴木孝治（編集）	メジカルビュー社 MEDIC
参考図書	適宜、紹介します		

回数	授 業 計 画
1	高次脳機能障害総論
2	脳の機能解剖と症状・障害像
3	脳の機能解剖と症状・障害像
4	画像の見かた
5	高次脳機能障害の特徴と原因疾患
6	中間のまとめと振り返り
7	意識とは、意識障害の症状と評価
8	注意とは、注意障害の特徴
9	注意障害の評価と介入
10	注意障害の評価と介入
11	半側空間無視と責任病巣
12	半側空間無視の関連症状
13	半側空間無視の評価と介入
14	半側空間無視の評価と介入
15	まとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○	令和 3 年度 OT学科					
授業科目名	高次脳機能障害作業治療学演習			担当者名		笠木 理江			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期
							30		
授業概要	高次脳機能障害に対する基礎的理解と作業療法評価、介入について理解し、評価手順や技法など演習形式で実施する。								
成績評価	期末試験にて評価する								
その他	有（学校勤務、病院勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	作業療法学ゴールドマスターテキスト高次脳機能障害作業療法学 病気がみえるvol7脳・神経	長崎重信（監修）、鈴木孝治（編集）	MEDICAL VIEW
参考図書	高次脳機能障害学第2版	石合 純夫	医歯薬出版株式会社

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション 認知障害への介入（認知とは 認知障害の特徴）
2	認知障害の評価 認知障害への介入
3	言語とは 言語障害の特徴
4	言語障害の評価 言語障害への介入
5	記憶とは 記憶障害の特徴
6	記憶障害の評価 記憶障害への介入
7	思考とは 思考障害の特徴
8	思考障害の評価 思考障害、問題解決の障害に対する介入
9	行為・行動とは 行為・行動障害の特徴
10	行為・行動障害の評価 行為・行動障害への介入
11	遂行機能と特徴
12	遂行機能障害の評価 遂行機能障害への介入
13	高次脳機能検査（演習）
14	高次脳機能検査（演習）
15	まとめ

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○	令和 3 年度 OT学科					
授業科目名	精神障害作業治療学			担当者名		矢ヶ部 華世子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期
							30		
授業概要	精神科医療の歴史的背景と精神障害の障害特性を理解し、精神障害により社会生活に対して生活のしづらさを持つ方々に対する作業療法の目的と役割、適切な治療、援助を行うかを学ぶ。								
成績評価	・ 中間試験 40%前後 ・ 期末試験 60%前後								
その他	実務経験 有（精神科病院勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	ゴールドマスター・テキスト 精神障害作業療法 学 改訂第2版	監修 長崎重信	メジカルビュー社
参考図書	精神障害作業療法 第2版 急性期から地域実践まで	香山 明美他	医歯薬出版株式会社

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション、精神科における治療過程、治療構造について理解する。
2	対象者を理解する治療的態度、関わり方について理解する。また、作業活動のもつ治療的な特徴、意味、実施されている作業活動について理解する。
3	集団の作り方、集団の治療効果について理解する。また、精神科作業療法の治療構造である時間・頻度・場所について理解する。
4	精神科作業療法と外来作業療法の治療構造の違い、それぞれの目的、特性、プログラムなどについて理解する。
5	デイケアの目的、特性、プログラムなどについて理解する。
6	精神療養病棟、認知症治療病棟における作業療法の目的、役割、注意すべき事項について理解する。
7	精神保健福祉センターやグループホームなどの社会資源について理解する。
8	中間試験と振り返り
9	回復過程の流れを理解する。
10	統合失調症の回復過程における作業療法について理解する。
11	統合失調症の回復過程における作業療法について理解する。
12	統合失調症の回復過程における作業療法について理解する。
13	気分障害の回復過程における作業療法について理解する。
14	気分障害の回復過程における作業療法について理解する。
15	まとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 3年度		OT学科			
授業科目名	精神障害作業治療学演習					担当者名		矢ヶ部 華世子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		
授業概要	精神障害領域の作業療法の対象となる疾患の臨床像と精神特性、疾患別作業療法の治療的方法について理解する。また、精神疾患の事例検討を通じて、障害特性に基づいた評価、治療プログラム立案、実施方法を学ぶ。										
成績評価	期末試験 100%										
その他	実務経験 有（医療機関）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	ゴールドマスター・テキスト 精神障害作業治療学 改訂第2版	監修 長崎重信	メジカルビュー社
参考図書	精神障害作業療法 第2版 急性期から地域実践まで	香山 明美他	医歯薬出版株式会社

回数	授 業 計 画
1	不安、無為・自閉、退行、妄想、うつ、躁状態に対する作業療法について理解する。
2	不安、無為・自閉、退行、妄想、うつ、躁状態に対する作業療法について理解する。
3	精神作用物質使用による精神および行動の障害に対する作業療法について理解する。
4	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害に対する作業療法について理解する。
5	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害に対する作業療法について理解する。
6	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群に対する作業療法について理解する。
7	成人の人格および行動の障害に対する作業療法に理解する。
8	成人の人格および行動の障害に対する作業療法に理解する。
9	知的障害に対する作業療法に理解する。
10	てんかんに対する作業療法に理解する。
11	地域生活支援（精神科訪問看護、包括型地域生活支援プログラム）の概要について理解する。
12	就労支援（福祉的就労と制度）について理解する。
13	統合失調症のケーススタディを通して、情報収集・評価の解釈について理解する。
14	統合失調症のケーススタディを通して、統合・目標設定について理解する。
15	統合失調症のケーススタディを通して、治療プログラムについて理解する。

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○	令和 3 年度 OT学科					
授業科目名	発達障害作業治療学			担当者名		秋永 洋平、杉本 亙、村谷 美里			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期
							30		
授業概要	発達障害領域の作業療法対象は広汎性発達障害や学習障害、注意欠陥多動性障害などの“発達障害”児が増えている。この授業科目では、発達障害領域の作業療法を学ぶ上での基礎的な知識から、臨床的に作業療法士が求められる内容を理解する。								
成績評価	期末試験100%								
その他	秋永 実務経験 有（病院勤務） 杉本 実務経験 有（病院勤務） 村谷 実務経験（老年期分野勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	作業療法学ゴールド・マスター・テキスト発達障害作業療法学 改訂第2版	神作一実	メジカルビュー社
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	定義を知り、作業療法における対象疾患を学ぶ。ライフステージに応じた展開やチームアプローチの重要性、対象、作業療法士に求められるものについて理解する。
2	子どもの発達について、粗大・微細・口腔運動発達について理解する。正常運動発達の背景について説明することができ、発達を促すために必要な評価について学ぶ。
3	子どもの発達について、コミュニケーション機能に発達過程について学ぶ。
4	発達障害領域の作業療法評価について、子供の作業に焦点を当てる必要性を学び、作業療法の評価の流れ（情報収集、面接、観察）について理解する。
5	発達障害領域の作業療法評価について、発達増を把握するための検査について学び、列挙することができる。
6	治療的アプローチについて脳性麻痺を中心に、類型の特徴と作業療法アプローチ、環境調整、セルフケアの援助について学ぶ。
7	筋ジストロフィーの病型、症状について
8	デュシェンヌ型筋ジストロフィーに対する作業療法について
9	二分脊椎の症状について
10	二分脊椎に対する作業療法、分娩麻痺の症状について
11	分娩麻痺に対する作業療法について
12	発達期の摂食嚥下機能の評価：摂食嚥下に関わる機能解剖について理解し、発達期の摂食嚥下障害の特徴について知る。
13	感覚統合障害：感覚統合障害についての全体像を理解する。
14	感覚統合障害：感覚統合障害を抱える子供たちの行動、評価方法について理解する。
15	感覚統合障害：事例集を通して、感覚統合障害への対応、アプローチについて理解する。

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○	令和 3 年度 OT学科					
授業科目名	発達障害作業治療学演習			担当者名		曾根川 達司			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期
							30		
授業概要	発達に障害を持つ対象者の特性、評価法、作業療法について講義をする。 映像などを使用して、症例の評価、活動分析を行う。 評価結果に基づいて治療目標を設定する。 方法についてはパワーポイントによるプレゼンテーションの利用とグループワークと発表、理解度確認（小テスト、ミニレポート）								
成績評価	期末試験 100%								
その他	実務経験 有（医療機関）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学	監修 長崎重信	メジカルビュー社
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	脳性麻痺児の評価について①
2	脳性麻痺児の評価について②
3	脳性麻痺児の作業療法について①
4	脳性麻痺児の作業療法について②
5	小児疾患の作業療法について①（二分脊椎 他）
6	小児疾患の作業療法について②（筋ジストロフィー 他）
7	知的障害の作業療法について
8	脳性麻痺児の治療の実際について①
9	脳性麻痺児の治療の実際について②
10	発達障害児の評価について①（含：感覚統合機能への評価）
11	発達障害児の評価について②（含：感覚統合機能への評価）
12	発達障害児の作業療法①（含：感覚統合機能への治療）
13	重度心身障害児の作業療法（摂食嚥下障害への評価、治療）
14	発達障害児の作業療法②
15	対人援助職としての作業療法士に求められるもの

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○	令和 3 年度	OT学科				
授業科目名	老年期作業治療学			担当者名	村谷 美里				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期
							30		
授業概要	高齢期作業療法の実践にあたり、基本的な枠組みや一般高齢者に対する作業療法のあり方、介護予防、認知症高齢者等に対する作業療法のあり方を理解する。また生活行為向上マネジメント（MTDLP）についての活用法について触れる機会を作る。								
成績評価	期末試験（100%）								
その他	実務経験 有（老年期分野勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 老年期作業療法学	長崎重信、徳永千尋、田村孝司	メジカルビュー社
参考図書	①標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学 第3版 ②高齢期領域の作業療法	①松房 利憲他 ②山田 孝他	①医学書院 ②中央法規出版

回数	授 業 計 画
1	高齢者マネジメントについて、ケアマネジメントの意義と目的、介護保険制度等との関わりを理解することができる。また、QOLと健康について、概念や測定法等を学ぶ。
2	健康高齢者（①）について、その概要をはじめ、作業療法士が対象者と関わる主な場所を知り、そこでの基本的方針および援助内容について理解することができる。
3	健康高齢者（②）について、実際の作業療法の実践を事例を通して、作業療法士の関わりを理解する。
4	虚弱高齢者（①）について、その概要をはじめ、作業療法士が対象者と関わる主な場所を知り、そこでの基本的方針および援助内容について理解する。
5	虚弱高齢者（②）について、現状や今後の日本の問題にとって必要不可欠なところになるため、文献等を用いてその経過や取り組みについて学ぶ。
6	身体障害を伴った高齢者（①）について、その概要をはじめ、作業療法士が対象者と関わる主な場所を知り、そこでの基本的方針および援助内容について理解する。
7	身体障害を伴った高齢者（②）について、その概要をはじめ、作業療法士が対象者と関わる主な場所を知り、そこでの基本的方針および援助内容について理解する。
8	身体障害を伴った高齢者（③）について、訪問や通所の目的やサービス内容の概要をはじめ、作業療法の取り組みについて理解する。
9	身体障害を伴った高齢者（④）について、入所の目的やサービス内容の概要をはじめ、作業療法の取り組みについて理解する。
10	精神障害を伴った高齢者について、その概要をはじめ、作業療法士が対象者と関わる主な場所を知り、そこでの基本的方針および援助内容について理解する。
11	認知症高齢者（①）について、認知症の種類の特徴を示すことができ、認知症に対する評価や治療目標について理解する。
12	認知症高齢者（②）について、過去の国家試験問題等を通して、治療の実際について理解する。
13	生活行為向上マネジメント（①）について、導入の背景、概要を理解する。
14	生活行為向上マネジメント（②）について、各シートの説明、一連の流れを理解する。
15	授業で学んだことを振り返り、学んだことを過去の国家試験問題等を通して、示すことができる。

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○	令和 2年度 OT学科					
授業科目名	作業療法セミナー I			担当者名		村谷 美里			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数		1			授業時間数	前期 15	後期 15	前期	後期
授業概要	基礎医学分野の総合的な学習と理解を深めることを目的とし、特に、基礎医学分野の中でも解剖学、運動学、生理学の理解度が今後の学習に影響してくるため、解剖学、運動学、生理学を中心に学習する。								
成績評価	小テストは4回実施し、総合的に評価する								
その他	実務経験 有（老年期分野勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	①PT・OT 基礎から学ぶ 解剖学ノート 第3版 ②PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート 第2版	中島雅美ら	医歯薬出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	解剖学（総論、神経系、骨学総論、中枢神経の全体像）、生理学（生命現象と人体、細胞の構造と機能）、運動学（総論、関節総論、骨学総論）で学んだことを示すことができる。
2	解剖学（骨学各論、大脳内側面、脳幹、間脳、辺縁系、上肢の骨、大脳基底核）、生理学（血液）、運動学（骨学各論）で学んだことを示すことができる。
3	解剖学（下肢の骨、大脳の断面、大脳皮質・髄質の構造、関節靭帯総論、半球間機能差、大脳皮質地図）、生理学（血管系③）、運動学（骨の指標に関する触察実習、筋学総論）で学んだことを示すことができる。
4	小テスト実施① 解剖学（授業のまとめと復習、大脳皮質の機能局在）、生理学（心臓と循環）、運動学（骨学各論）で学んだことを示すことができる。
5	解剖学（下肢の筋、上行路と下行路、上肢の筋、脊髄神経、腕神経叢）、生理学（呼吸器系）、運動学（筋学総論、筋学各論）で学んだことを示すことができる。
6	解剖学（上肢の筋、脳神経、自律神経系、体幹の筋、神経系障害と作業療法の関連事項）、生理学（呼吸とガスの運搬）、運動学（筋学各論）で学んだことを示すことができる。
7	解剖学（筋の起始・停止、支配神経の覚え方、感覚器系）、生理学（泌尿器系）、運動学（生体力学の基礎）で学んだことを示すことができる。
8	小テスト実施② 解剖学はを行い、生理学（尿の生成と排出）、運動学（生体の構造と機能、運動の中枢神経機構、歩行、姿勢）は授業で学んだことを示すことができる。
9	体表解剖学、生理学（神経系障害と筋収縮）、運動学（肩関節複合体、肩甲上腕機構、肩甲胸郭機構）は授業で学んだことを示すことができる。
10	体表解剖学、生理学（中枢神経系、脳幹、筋収縮）、運動学（肘関節、前腕、手指）で学んだことを示すことができる。
11	体表解剖学、生理学（小脳、大脳皮質、神経系）、運動学（脊柱）で学んだことを示すことができる。
12	小テスト実施③ 体表解剖学、生理学（脳の高次脳、まとめ）、運動学（股関節）で学んだことを示すことができる。
13	体表解剖学、生理学（大脳基底核と脳梁、感覚）、運動学（膝関節）で学んだことを示すことができる。
14	体表解剖学、生理学（感覚、代謝と体温）、運動学（足関節）で学んだことを示すことができる。
15	小テスト実施④ 体表解剖学、生理学（神経障害系、運動生理）、運動学（まとめ）で学んだことを示すことができる。

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○	令和 2年度 OT学科					
授業科目名	作業療法セミナー I			担当者名		村谷 美里			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数		1			授業時間数	前期 15	後期 15	前期	後期
授業概要	基礎医学分野の総合的な学習と理解を深めることは、今後とも必要となる。特に、基礎医学分野の中でも解剖学、運動学、生理学を中心に学習する。								
成績評価	小テストを実施し、総合的に評価する								
その他	実務経験 有（老年期分野勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	①PT・OT 基礎から学ぶ 解剖学ノート 第3版 ②PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート 第2版	中島雅美ら	医歯薬出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	体表解剖学、生理学（筋の収縮について、神経細胞の興奮など）、運動学（肩関節複合体、肩甲上腕機構）で学んだことを示すことができる。
2	体表解剖学、生理学（筋の収縮について、神経系の分類など）、運動学（肩甲上腕機構、肩甲胸郭機構）で学んだことを示すことができる。
3	体表解剖学、生理学（筋の収縮について、中枢神経系の構成など）、運動学（肘関節、前腕）で学んだことを示すことができる。
4	体表解剖学、生理学（筋の収縮について、脳幹に関してなど）、運動学（前腕、手指）で学んだことを示すことができる。
5	体表解剖学、生理学（小脳に関して、神経系についてなど）、運動学（手指）で学んだことを示すことができる。
6	体表解剖学、生理学（神経系について、大脳皮質の機能局在など）、運動学（脊柱）で学んだことを示すことができる。
7	体表解剖学、生理学（まとめ及び復習、脳の高次機能についてなど）、運動学（脊柱）で学んだことを示すことができる。
8	体表解剖学、生理学（中間試験の振り返り）、運動学（まとめ、股関節）で学んだことを示すことができる。
9	体表解剖学、生理学（感覚について、大脳基底核と脳梁に関して）、運動学（股関節）で学んだことを示すことができる。
10	体表解剖学、生理学（感覚について、脳室と脳脊髄液に関してなど）、運動学（股関節）で学んだことを示すことができる。
11	体表解剖学、生理学（代謝と体温について、感覚に関してなど）、運動学（膝関節）で学んだことを示すことができる。
12	体表解剖学、生理学（代謝と体温について、体制感覚に関してなど）、運動学（膝関節）で学んだことを示すことができる。
13	体表解剖学、生理学（運動生理について、神経系障害・疾患の特徴など）、運動学（膝関節）で学んだことを示すことができる。
14	体表解剖学、生理学（運動生理について、神経系障害・疾患の特徴など）、運動学（膝関節、足関節）で学んだことを示すことができる。
15	体表解剖学、生理学（まとめ及び復習、補足など）、運動学（足関節）で学んだことを示すことができる。

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○	令和 3 年度	OT学科				
授業科目名	作業療法セミナーⅡ			担当者名	杉本 亙				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期
							15	15	
授業概要	学習の振り返り、学習計画作成などを行い、学んだ知識・技術を蓄積させていくことを目的とする。また、コミュニケーションスキル（各種連絡事項の伝達など）、ソーシャルスキル（イベント、行事、ボランティアへの参加といったフィールドワーク）といった作業療法士に必要な技能についても当科目で実施しその素地を養う。								
成績評価	レポート、試験などから総合的に判断する。								
その他	実務経験 有（医療機関）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	なし		
参考図書	1年次、2年次で使用する教科書		

回数	授 業 計 画
1	1年次の復習（解剖学）について、確認テストを実施し、苦手分野の抽出と理解度に合わせて補足を行う。
2	1年次の復習（生理学）について、確認テストを実施し、苦手分野の抽出と習熟度に合わせて補足を行う。
3	1年次の復習（運動学）について、確認テストを実施し、苦手分野の抽出と習熟度に合わせて補足を行う。
4	作業療法評価：情報収集と面接 情報収集に必要な項目、面接技法や注意点について理解、実施する。結果の解釈を行う。
5	作業療法評価：バイタルサイン 意識レベル、脈、血圧、体温、呼吸、動脈血酸素飽和度について理解、実施する。結果の解釈を行う。
6	作業療法評価：認知機能・精神機能 認知機能・精神機能検査について理解、実施する。結果の解釈を行う。
7	作業療法評価：形態測定 形態測定について理解、実施する。結果の解釈を行う。
8	作業療法評価：関節可動域検査（ROM） 関節可動域検査について理解、実施する。結果の解釈を行う。
9	筋力検査： 筋力及び徒手筋力検査について理解、実施する。結果の解釈を行う。
10	感覚検査： 感覚検査について理解、実施する。結果の解釈を行う。
11	各種反射検査（腱反射、表在反射、病的反射）： 腱反射、表在反射、病的反射について理解、実施する。結果の解釈を行う。
12	姿勢反射、バランス検査： 姿勢反射、バランス検査について理解、実施する。結果の解釈を行う。
13	筋緊張検査： 筋緊張検査について理解、実施する。結果の解釈を行う。
14	脳神経検査： 脳神経検査について理解、実施する。結果の解釈を行う。
15	精神機能評価： 精神機能評価について理解、実施。結果の解釈を行う。

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校			
			○	令和 4 年度	OT学科		
授業科目名	基礎医学演習			担当者名	笠木 理江、秋永 洋平		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次
単位数		2			授業時間数	前期	後期
						前期	後期
						前期	後期
							60
授業概要	これまでに学習してきた知識（基礎医学）を整理する。 グループ学習などを積極的に取り入れ、幅広い知識を共有することを目指す。						
成績評価	課題の内容、学習意欲、学習態度、試験などによって総合的に評価する。						
その他	笠木 理江 有（学校勤務、病院勤務）、秋永 洋平 有（病院勤務）						

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	PT/OT国家試験必修ポイント2022 基礎医学	白石泰夫	医歯薬出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	1) オリエンテーション 2) 学習計画表の作成 3) 基礎知識の整理 ①国家試験に必要な基礎専門科目の知識を確認する（グループ学習） ②小テストを受け苦手分野を把握する
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

[illegible][illegible]

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校			
			○	令和 4 年度	OT学科		
授業科目名	臨床医学演習			担当者名	笠木 理江、秋永 洋平		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次
単位数		2			授業時間数	前期	後期
						前期	後期
						前期	後期
							60
授業概要	これまでに学習してきた知識（臨床医学）を整理する。 グループ学習などを積極的に取り入れ、幅広い知識を共有することを目指す。						
成績評価	課題の内容、学習意欲、学習態度、試験などによって総合的に評価する。						
その他	笠木 理江 有（学校勤務、病院勤務）、秋永 洋平 有（病院勤務）						

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	PT/OT国家試験必修ポイント2022 臨床医学	白石泰夫	医歯薬出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	1) 学習計画表の作成 2) 基礎知識の整理 ①国家試験に必要な専門基礎科目の知識を確認する（グループ学習） ②小テストを受け苦手分野を把握する
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 3年度		OT学科			
授業科目名	臨床医学演習					担当者名		笠木 理江、秋永 洋平			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
											60

[illegible]

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校			
			○	令和 4 年度	OT学科		
授業科目名	基礎作業療法学演習				担当者名	笠木 理江、秋永 洋平	
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次
単位数		2			授業時間数	前期	後期
						前期	後期
						前期	後期
							60
授業概要	これまでに学習してきた知識（基礎作業療法学）を整理する。 グループ学習などを積極的に取り入れ、幅広い知識を共有することを目指す。						
成績評価	課題の内容、学習意欲、学習態度、試験などによって総合的に評価する。						
その他	笠木 理江 有（学校勤務、病院勤務）、秋永 洋平 有（病院勤務）						

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	PT/OT国家試験必修ポイント2022 基礎OT学	白石泰夫	医歯薬出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	・基礎作業療法学と専門科目、総合学習 ①国家試験問題を解き専門分野の知識を学習する（グループ学習） ②模試試験などにて成績確認を行い、不十分な知識の習得を行う ③すでに学習している領域の習熟度が低い場合は、原因を検討し再習得を図る
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

[illegible][illegible]

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○	令和 4 年度	OT学科				
授業科目名	臨床作業療法学演習			担当者名	笠木 理江、秋永 洋平				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期
									60
授業概要	これまでに学習してきた知識（臨床作業療法学）を整理する。 グループ学習などを積極的に取り入れ、幅広い知識を共有することを目指す。								
成績評価	課題の内容、学習意欲、学習態度、試験などによって総合的に評価する。								
その他	笠木 理江 有（学校勤務、病院勤務）、秋永 洋平 有（病院勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	PT/OT国家試験必修ポイント2021臨床医学	白石泰夫	医歯薬出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	- 臨床作業療法治療学と専門科目、総合学習 ①国家試験問題を解き専門分野の知識を学習する（グループ学習） ②模試試験などにて成績確認を行い、不十分な知識の習得を行う ③すでに学習している領域の習熟度が低い場合は、原因を検討し再習得を図る
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 4年度 OT学科					
授業科目名	臨床作業療法学演習					担当者名		秋永 洋平、笠木 理江			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
											60

[illegible]

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○	令和 3 年度 OT 学科					
授業科目名	地域作業療法学 I			担当者名		杉本 亙			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期
							30		
授業概要	現代のリハビリテーションにおいて、福祉用具適用及び住宅改修等を手段とする住環境整備は重要性を増してきている。本教科では、それらの具体的内容、評価から対応法にいたるまで学習し、福祉用具の専門的知識を高める。								
成績評価	レポート課題：30%前後、期末試験：70%前後。								
その他	実務経験 有（医療機関）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	作業療法学全書 福祉用具の使い方・住環境整備	木之瀬 隆 他	共同医書出版社
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション：福祉用具とは何か？ 福祉用具の定義や歴史について理解し、様々な種類の福祉用具を知る。
2	福祉用具総論・福祉用具の運用 福祉用具の制度・法律や関連する様々な用語を知る。
3	福祉用具と作業療法士の役割 ICFアセスメントや供給システムについて理解することができる。
4	福祉用具適応論・リスクマネジメント 福祉用具の選定や適合、安全性について理解することができる。
5	福祉用具給付の制度・法律について 障害者総合支援法や介護保険法とその他の方法について理解できる。
6	福祉用具の適応（症例含む） 起居・床上動作を理解し、関連する福祉用具について知る。
7	福祉用具の適応（症例含む） 移乗動作・座位保持を理解し、関連する福祉用具について知る。
8	福祉用具の適応（症例含む） 移動動作を理解し、関連する福祉用具について知る。
9	福祉用具の適応（症例含む） 入浴、更衣、整容、排泄、食事動作を理解し、関連する福祉用具について知る。
10	障害別にみた福祉住環境整備① 頸髄損傷、脳血管障害の特徴、福祉用具の評価・適応について理解する。
11	障害別にみた福祉住環境整備② 関節リウマチ、進行性疾患の特徴、福祉用具の評価・適応について理解する。
12	障害別にみた福祉住環境整備③ 脳性麻痺、認知症、精神障害の特徴、福祉用具の評価・適応について理解する。
13	まとめ：学習の習熟度に合わせて補足。
14	在宅生活における福祉用具の活用 <実習：福祉用具プラザ北九州での福祉用具使用体験> レポート課題
15	在宅生活における福祉用具の活用 <実習：福祉用具プラザ北九州での福祉用具使用体験> レポート課題

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○	令和 3 年度 OT 学科					
授業科目名	地域作業療法学Ⅱ（福祉用具学を含む）			担当者名		杉本 亙			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期
							30		
授業概要	地域包括ケアシステムの推進が進められていく中、地域リハビリテーションの重要性は増してきています。それを取り巻く法制度（介護保険制度・障害者総合福祉法・医療保険制度）も踏まえて、その知識と地域の中で作業療法士が担う役割を学習していきます。								
成績評価	期末試験（100%）								
その他	実務経験 有（医療機関）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト 標準作業療法学 専門分野 地域作業療	野村 歡 他 大熊 明・加藤 朋子 編集	東京商工会議所 医学書院
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	高齢者を取り巻く社会状況と住環境：高齢者の生活状況と住環境整備の重要性・必要性について理解する。
2	高齢者を取り巻く社会状況と住環境：介護保険制度の概要、高齢者向けの住宅施策の変遷と概要について理解する。
3	障害者を取り巻く社会状況と住環境：障害者の生活と住環境、障害者福祉施策の概要、住宅施策の変遷と概要について理解する。
4	福祉住環境コーディネーターの役割と機能について理解する。
5	高齢者の身体的特性と心理・精神的特性について理解する。障害をもった時期に起因した特性、リハビリテーションの経過に伴う変化、障害に対する態度について理解する。
6	高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備について理解する。
7	障害別にみた福祉住環境整備について理解する。
8	福祉住環境整備の共通基本技術について理解する。
9	生活行為別福祉住環境整備の手法について理解する。
10	在宅生活における福祉用具の活用について理解する。
11	事例集を通して福祉住環境整備について理解する。
12	地域での作業療法： 地域での作業療法士の関わり方について理解する。
13	地域での作業療法 地域での作業療法士の関わり方について理解する。
14	地域での作業療法 地域での作業療法士の関わり方について理解する。
15	学習の習熟度に合わせて補足、まとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 3 年度 OT学科					
授業科目名	OSCE（客観的臨床能力試験）					担当者名		檀 拓真、秋永 洋平			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				2	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									90		
授業概要	臨床実習（本校における基礎臨床実習及び総合臨床実習）に向け、コミュニケーション能力を含めた評価技術や医療人としての態度を知ることが重要となる。各評価におけるリスクと安全に評価を提供できる技術を理解、習得し、疾患に応じた各評価、介助法、面談方法等の各項目についてOSCE（実技試験）を実施する。										
成績評価	実技試験100%										
その他	檀 拓真（有 病院勤務） 秋永 洋平（有 病院勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編	才藤栄一 監修	金原出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション（OSCEの概要、実施方法の説明）
2	リスク管理①（患者誤認防止）
3	リスク管理②（転倒予防：移乗、座位）
4	リスク管理③（転倒防止：歩行、階段）
5	リスク管理④（点滴管理、カテーテル管理）
6	コミュニケーション技法①（患者との位置関係、姿勢、視線の高さ、距離）
7	コミュニケーション技法②（傾聴技法、会話、表情や話し方の調整）
8	上肢管理（三角筋の装着）
9	短下肢装具の装着介助
10	長下肢装具の装着介助
11	脈拍測定
12	血圧測定
13	脈拍測定、血圧測定（模擬患者に対する測定）
14	車椅子の駆動介助①（停車時の車椅子の状態確認、患者の座位姿勢の確認）
15	車椅子の駆動介助②（直線・カーブ・スロープ・段差での車椅子操作）
16	二人介助での移乗①（上肢担当者の移乗介助法）

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 3 年度		OT学科			
授業科目名	OSCE（客観的臨床能力試験）					担当者名		檀 拓真、秋永 洋平			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				2	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									90		

回数	授 業 計 画
17	二人介助での移乗②（下肢担当者の移乗介助法）
18	一人介助での移乗①（膝を床につけない移乗介助法、膝を床につける移乗介助法）
19	一人介助での移乗②（療法士の膝の上に乗せる移乗介助法）
20	関節可動域①（ROM測定：肩関節～肘関節）
21	関節可動域②（ROM測定：手関節～手指関節）
22	関節可動域③（ROM測定：股関節～足関節）
23	関節可動域④（ROM測定：模擬患者に対するROM測定実技 上肢）
24	関節可動域⑤（ROM測定：模擬患者に対するROM測定実技 下肢）
25	筋力測定①（MMT：上肢）
26	筋力測定②（MMT：手指）
27	筋力測定③（MMT：下肢）
28	筋力測定④（MMT：模擬患者に対するMMT実技 上肢）
29	筋力測定⑤（MMT：模擬患者に対するMMT実技 下肢）
30	整形外科別疾患検査①（肩腱板断裂の検査：：drop arm test）
31	整形外科別疾患検査②（肩腱板断裂の検査：その他の検査法）
32	整形外科別疾患検査③（腰椎椎間板ヘルニアの検査：下肢伸展挙上テスト）
33	整形外科別疾患検査④（腰椎椎間板ヘルニアの検査：その他の検査法）
34	形態測定①（周径）
35	形態測定②（模擬患者に対する周径測定）
36	形態測定③（四肢長）
37	形態測定④（模擬患者に対するSMD測定）
38	形態測定⑤（模擬患者に対するTMD測定）
39	触覚検査①（表在感覚：触覚、痛覚）
40	触覚検査②（模擬患者に対する表在感覚測定）

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 3 年度 OT学科					
授業科目名	OSCE（客観的臨床能力試験）					担当者名		檀 拓真、秋永 洋平			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				2	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									90		

回数	授 業 計 画
41	受動運動覚検査について③（深部感覚：位置覚、受動運動覚）
42	受動運動覚検査について④（模擬患者に対する深部感覚測定）
43	反射検査について①（腱反射）
44	反射検査について②（模擬患者に対する腱反射検査）
45	反射検査について③（病的反射）
46	反射検査について④（模擬患者に対する病的反射検査）
47	認知力検査について①（HDS-R）
48	認知力検査について②（MMSE）
49	認知力検査について③（模擬患者に対する認知力検査）
50	Brunnstrom Recovery Stageについて①（上肢）
51	Brunnstrom Recovery Stageについて②（手指）
52	Brunnstrom Recovery Stageについて③（下肢）
53	立位バランスの評価①（静的姿勢保持）
54	立位バランスの評価②（模擬患者に対する静的姿勢保持評価）
55	立位バランスの評価③（Functional Reach Test）
56	立位バランスの評価④（模擬患者に対するFunctional Reach Test）
57	立位バランスの評価③（Burg Balance Scale：検査項目1～8）
58	立位バランスの評価④（Burg Balance Scale：検査項目9～16）
59	立位バランスの評価⑤（模擬患者に対するBurg Balance Scale）
60	まとめ、振り返り

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 3 年度 OT学科					
授業科目名	臨床課題演習 I					担当者名		笠木 理江 秋永 洋平 矢ヶ部 華世子			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		4			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									120		
授業概要	身体及び精神障害の疾患から考えられる症状や特徴の理解を深める。また、身体及び精神の症例データを参考に、対象者に対し、一連の作業療法過程（情報収集・予後予測・評価計画・評価・作業療法目標立案・作業療法プログラム立案など）を経験する。その中で対象者の全体像の文章化やICF の枠組みで、系統立てながら対象者について概説できる力を身につける。										
成績評価	課題レポート、発表、学習に取り組む姿勢を総合的に判断し評価する										
その他	笠木 理江 有（学校勤務、病院勤務）、秋永 洋平 有（病院勤務）、矢ヶ部 華世子 有（病院勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	作業療法士プロフェッショナル・ガイド	杉原 素子	文光堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	臨床課題演習の学習の進め方についてのオリエンテーション。
2	提示された症例（整形疾患）の情報を理解する。
3	症例のバックグラウンドと全体像の把握に必要な情報項目を列挙する。
4	画像所見から予測される症状や手術適応、リスク管理について列挙する。
5	画像所見からどの障害分類となるかを把握する。また、施行される手術に対する学習をする。
6	情報収集の結果を記録用紙①にまとめる。
7	疾患や症状から必要と考えられる評価項目を列挙する。
8	検査・測定が必要な理由・根拠・実施の留意点を列挙する。
9	評価結果の解釈をする。
10	評価結果の解釈をする。
11	評価結果から得られた情報をICFで分け整理する。
12	画像所見や各情報、評価結果から予後予測を考察する。
13	問題点・利点の整理と、ICFを使用して統合と解釈をする。
14	症例の状況と予後予測を踏まえ作業療法目標を設定する。
15	振り返りとまとめ。
16	提示された症例（脳卒中）の情報を理解する。

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○	令和 3 年度	OT学科				
授業科目名	臨床課題演習 I			担当者名	笠木 理江 秋永 洋平 矢ヶ部 華世子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数		4			授業時間数	前期	後期	前期	後期
								120	

回数	授 業 計 画
17	症例のバックグラウンドと全体像の把握に必要な情報項目を列挙する。
18	各グループの情報を共有し、必要な情報を抽出する。
19	障害部位から予測される症状やリスク管理について調べる。
20	脳の機能局在について各グループで調べ学習をする。
21	画像所見から推測される症状、特徴、予後を把握する。
22	情報収集結果から、生活行為を妨げると予測される項目の列挙とその要因を考える。
23	問題点とその要因を仮説立案用紙に記入する。
24	疾患や症状から必要と考えられる評価項目を列挙し、記録用紙②に記入する。
25	検査・測定が必要な理由・根拠・実施の留意点を列挙する。
26	評価結果の解釈をする。
27	評価結果の解釈をする。
28	評価結果から得られた情報をICFで分け整理する。
29	問題点・利点の整理と、ICFを使用して統合と解釈をする。
30	画像所見や各情報、評価結果から予後予測をする。
31	問題点から作業療法士として対応すべき課題を抽出する。
32	予後予測を踏まえ症例の状況に合わせた目標を設定する。
33	症例の目標において、各専門職で介入するものと作業療法士として介入すべきものを分ける。
34	作業療法目標（最終、長期、短期目標）を設定し、記録用紙③に記入する。
35	達成すべき課題と目標設定に対する解釈を考察し、記録用紙③に記入する。
36	達成すべき課題と目標設定に対する解釈を考察し、記録用紙③に記入する。
37	作業療法目標を達成するためのプログラムを立案する。
38	作業療法目標を達成するためのプログラムを立案する。
39	各記録用紙の内容をA3レジュメにまとめる。
40	各記録用紙の内容をA3レジュメにまとめる。

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○	令和 3 年度	OT学科				
授業科目名	臨床課題演習 I			担当者名	笠木 理江 秋永 洋平 矢ヶ部 華世子				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数		4			授業時間数	前期	後期	前期	後期
								120	

回数	授 業 計 画
41	各記録用紙の内容をA3レジュメにまとめる。発表用原稿の作成。
42	各記録用紙の内容をA3レジュメにまとめる。発表用原稿の作成。
43	症例発表。
44	症例発表。
45	振り返りとまとめ。
46	提示された症例（統合失調症）の情報を理解する。
47	症例のバックグラウンドと全体像の把握に必要な情報項目を列挙する。
48	情報収集の結果を記録用紙①にまとめる。
49	情報収集の結果を記録用紙①にまとめる。
50	情報収集の結果から生活行為を妨げていると予測される項目の列挙とその要因を考える。
51	仮説より評価項目を列挙し、記録用紙②を作成する。
52	評価結果から得られた情報をICFで分け整理する。
53	問題点・利点の整理と、ICFを使用して統合と解釈をする。
54	作業療法目標（最終、長期、短期目標）を設定し、記録用紙③に記入する。
55	達成すべき課題と目標設定に対する解釈を考察し、記録用紙③に記入する。
56	達成すべき課題と目標設定に対する解釈を考察し、記録用紙③に記入する。
57	作業療法目標を達成するためのプログラムを立案する。
58	作業療法目標を達成するためのプログラムを立案する。
59	記録用紙1～3に整合性をもって記録する。
60	全体のまとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 4 年度 OT学科					
授業科目名	臨床課題演習Ⅱ					担当者名		笠木 理江 秋永洋平			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										30	
授業概要	総合臨床実習で得られた知識や対象者の一連の作業療法過程（情報収集・予後予測・評価計画・評価・作業療法目標立案・作業療法プログラム立案、作業療法実施など）を全体像の文章化やICF の枠組みで、系統立てながら対象者について概説できる力を身につける。										
成績評価	課題レポート、発表、学習に取り組む姿勢を総合的に判断し評価する										
その他	笠木 理江 有（学校勤務、病院勤務）、秋永 洋平 有（病院勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書			
参考図書			

回数	授業計画
1	1) 総合臨床実習の振り返り 2) まとめ 3) 発表準備（パワーポイント、紙面での作成） 4) 発表
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 2、3年度		OT学科			
授業科目名	見学臨床実習					担当者名		村谷 美里			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				3	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							90	45			
授業概要	医療機関や地域分野での見学実習を通して、医療や社会の中における作業療法の役割と責任を学ぶことを目的とする。 また、見学における必要な規則や心得、時間を守る、服装や身だしなみに配慮するなど医療専門職として責任ある態度、行動が取れることを目的とする。										
成績評価	評価の基準：見学臨床実習に必要な資質や知識， マナーなど 評価の方法：実習態度、課題レポートを総合的に判断										
その他	実務経験 有（老年期分野勤務）										

実習目的	・医療や社会の中における作業療法の役割と責任を学ぶ。 ・必要な規則や心得、時間を守る、服装や身だしなみに配慮するなど医療専門職として責任ある態度、行動が取れることを目的とする。 ・職業イメージを持つことで、専門教科への学習意欲向上に繋げていく。
実習目標	1) 職業人としての常識的態度を身につける。 2) 責任ある行動を身につける。 3) 自己管理ができる。 4) 意欲的に取り組む姿勢（探求性・創造性）を身につける。
実習内容	医療機関や地域分野での実習（135時間） 教員や臨床教育者を通し、作業療法の役割や作業療法士の責任や対象者との関わり方などを学び、基本的態度が取れることを目標とする。 実施内容： 具体的な実習内容、方法は授業計画、実習要項参照。

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○	令和 3 年度	OT学科				
授業科目名	基礎臨床実習			担当者名	杉本 亙				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数				3	授業時間数	前期	後期	前期	後期
								135	
授業概要	2 年次までに学んだ作業療法の検査を適切に実施でき、その結果の解釈を中心に、実習指導者の指導を仰ぎながら実際の患者にそれを応用し、実際の知識技術として体得する。また、検査測定技術のみにとらわれすぎるのではなく、評価を通して、全体としての患者像を理解できるようにする。								
成績評価	評価の基準：臨床実習に必要な資質や知識，マナー等 評価の方法：臨床実習指導者の評価（臨床経験報告書、臨床経験チェックシートの内容）及び欠席状況や実習終了後の報告書作成、発表の内容で総合的に判断する。								
その他	実務経験 有（医療機関）								

実習目的	1) 医療人としての心構えや態度を習得する。 2) リハビリテーションにおける作業療法士の役割と責任を理解する。 3) 作業療法評価の過程を理解する。 4) 「作業療法評価」を中心として、学校の講義で修得した知識と技術について臨床実習を通して経験し、実践力を養う。 5) 将来、作業療法士として対象者と関わっていく上での基礎（作業療法評価、問題点の抽出、作業療法目標および作業療法プログラムの立案、考察までの一連の流れ）を学ぶ。
実習目標	1) 作業療法の意義を学ぶ。 2) 作業療法士の役割を学ぶ。 3) 作業療法士としての義務、責任、倫理を学ぶ。 4) 作業療法士としての学識、技術、態度を学ぶ。
実習内容	実習時間（135時間） 具体的な実習内容、方法は実習要項参照

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○	令和 4 年度	OT学科				
授業科目名	総合臨床実習			担当者名	秋永 洋平				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数				16	授業時間数	前期	後期	前期	後期
								720	
授業概要	作業療法についての知識・技能の学習の総決算として、実習指導者の指導のもとにこれらを応用し、評価・治療計画・治療・効果判定という一連の作業療法過程を実施し、ならびにそのために必要な記録・報告ができるようにする。また、作業療法部門の管理・運営に関する基本的事項について自分の意見を持ち、医療専門職として責任ある態度・行動を取れるようになることを目的とする。								
成績評価	評価の基準：臨床実習に必要な資質や知識、マナー等 評価の方法：臨床実習指導者の評価（臨床経験報告書、臨床経験チェックシートの内容）及び欠席状況や実習終了後の報告書作成、発表の内容で総合的に判断する。								
その他	実務経験 有（医療機関）								

実習目的	1) 作業療法士としての心構え、態度を修得する。 2) チーム医療における作業療法士の役割と責任を理解する。 3) 「作業療法評価と治療・介入」を中心に、学内の講義で習得した知識と技術を臨床の場で実践する。 4) 将来、作業療法士として対象者に関わっていく上で必要な事柄（作業療法評価、問題点・利点の抽出、作業療法目標および作業療法プログラムの立案、考察までの一連の流れ）についてまとめる力をつける。
実習目標	1) 作業療法の意義を学ぶ。 2) 作業療法士の役割を学ぶ。 3) 作業療法士としての義務、責任、倫理を学ぶ。 4) 作業療法士としての学識、技術、態度を学ぶ。
実習内容	実習時間（720時間） 具体的な実習内容、方法は臨床実習の概要参照